

徳山高専だより

2016年度 No.70



目次

2016年度の徳山高専	1
特集1 今年の顔 高専生の活躍	2
特集2 教育改革を進める徳山高専	5
Look Back 2016	8
留学生だより	11
高城寮より	14
第42回 高専祭を終えて	16
就職・進学状況/就職・進学試験体験記	
本科	18
専攻科	24
卒業生だより	27
ホームカミングデー	30
図書館だより	30
退職者挨拶	31
編集後記	

2016年度の徳山高専



4月 入学式



5月・10月 クラスマッチ



6月 第69回中国高等学校
陸上競技対校選手権
大会男子走高跳



6月・12月 平原地区合同美化作業



6月 第70回中国四国学生陸上競技対校選手権
大会男子3000mSC

7月 中国地区高専体育大会



水泳部



硬式テニス部



卓球部



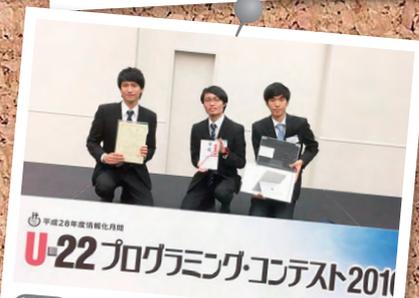
ソフトテニス部



9月 下松市と連携協定締結



8月 全国高専体育大会 バレーボール部



10月 U-22プログラミングコンテスト



10月 高専ロボコン



10月 高専祭



12月 デザコン2016 in Kochi

感謝の全国優勝

徳山高専 男子バレーボール部

全国高専体育大会で8度目の優勝を果たすことができました。バレー部を応援してくださった多くの方々、本当にありがとうございました。このところ、中国大会ではずっと、松江高専に負けてきました。今年も、中国大会で松江高専に勝てませんでした。しかし…今年は違いました。ここから、ドラマが始まります。

2016年7月3日の中国大会決勝戦で、松江高専に21-25、25-21、22-25で敗れ、中国地区2位で全国大会への切符を手に入れました。しかし、即、猛・猛猛特訓が始まりました。中国地区大会のサーブレシーブで狙われたエース兼キャプテンが先頭に立って、練習に耐えました。ボールをたたいて下さる藤井健二コーチも大変でした。コーチの自宅は広島です。土曜日は周南市内のホテルに泊まり、翌日の日曜日にも滝のように汗を流しながら、レシーブを鍛えます。甲子園を目指す高校球児のご子の応援をがまんして、バレー部の練習につきあってくださいました。この間に、保護者は練習試合に来てくださった宇部商業高校や島根の安来高校の食事を作ってくださいました。栄養をつけたい男子学生は大喜びでした。

そうして迎えた8月の全国大会は岐阜でした。宿についたとたん学生が目点になりました。男女のトイレが分かれていないのです。一時バレーの事を忘れて、ただひたすら愚痴を言い合っていました。

8月20日の予選リーグでは、新居浜高専と釧路高専に対して1セットも落としませんでした。翌日の決勝トーナメントは、まず、準決勝で松江高専と当たり、25-19、25-23で勝ちました。コートの中に中国大会とは違う空気が流れているのがわかりました。決勝戦は神戸高専です。試合の中で、誰かがレシーブしたボールが、コート外へ飛び出しました。次の瞬間、第2エースの4年生が、そのボールに横レシーブで飛びつき、次へつなぎました。この時、みんなに鳥肌が立ちました、「あっ!全国優勝できる。」と。結果、27-25、25-16で勝ちました。

【キャプテン 宇根昌和】今回、全国高専大会優勝できてとても嬉しいです。辛いこともあったけど、部員のみんなはよくついてきてくれたと思います。今まで支えてくださった保護者の方々、先生、本当にありがとうございました。

【IE5年 坪金裕太】下級生に支えられながら、全国優勝という最高の形で締めくくることができました。本当に感謝しています。来年は連覇を目指すということなので、今後とも応援よろしくお願いします。僕も東京から応援したいと思います。

【ME5年 田代駿介】長い5年間でした。セッターに抜擢され、トスに悩んだ高校チームでの思い出、自分の役割がつかめず、もがき苦しんだ高専チームでの思い出、辛く、苦しかった思い出の方が多いはずなのに、楽しかった事しか思い出せません。



デザコン2016 in Kochi 今年も魅せた！ 結美弦と透ヶ織のダブル受賞

平成28年12月17日～18日に高知市ちばさんセンターで行われた「デザコン2016 in Kochi」の構造デザイン部門で、結美弦（ゆみづる：EC1山根達郎君、CA4加納萌里さん、CA3佐々木日菜さん、CA3寺西冴映さん、CA2貞本侑香里さん、CA2山本真奈美さん）と透ヶ織（すきがおり：EC1小山諒子さん、CA3横屋翔君、CA3徳重茜さん、CA3藤永りささん、CA2中村智哉君、CA1裏谷万葉君）の2作品が優秀賞と企業賞（日刊建設工業新聞社特別賞）のダブル受賞を果たしました。構造デザイン部門でのダブル受賞は2年連続、優秀賞（準優勝）は3大会連続の快挙です。

今大会は、昨年度と同様に直径0.7～2mmの銅線をハンダ接合して組み立てたスパン90cmのメタルブリッジによる载荷試験とプレゼン評価によるものでしたが、作品の高さ制限が増され、しかも橋の下に一定の空間を設けるという条件が付加されたため、昨年よりも格段に難易度の高い課題でした。

「結美弦」は、有限要素法による構造解析を重ね、徹底的に合理化されたアーチリブと手作業にこだわった匠の技により、わずか168gの作品重量にも関わらず60kgの荷重に耐え抜き、プレゼンでも高得点を獲得し、準優勝（60作品中）を獲得しました。

「透ヶ織」は、銅製の歯車を用いて高さ5mmのミニラチス梁を高精度かつ連続的に製作し、アーチリ



载荷準備中の「結美弦」

载荷試験中の「透ヶ織」

ブに採用したアイデア満載の作品です。191gの軽さと60kgの耐荷重、さらには満点のプレゼン得点を獲得し、企業賞（第4位）の受賞となりました。

37高専から60作品がエントリーした中での第2位と4位は素晴らしい戦績ですが、3大会連続での準優勝に、メンバー一同は嬉しさと共に悔し涙がにじんだ、印象深い高知大会でした。来年の岐阜大会に向けて、悲願の優勝に向けて、また長い道のりが始まります。

（CA：土木建築工学科 EC：環境建設工学専攻）



中国地区英語弁論大会で入賞

平成28年11月12日（土）に広島県竹原市で第32回中国地区高等専門学校英語弁論大会が開催されました。この大会は、制限時間5分で物語やスピーチの暗唱を行うレシテーション（暗唱）部門と制限時間7分で自分の意見を述べるスピーチ（弁論）部門から成り、各校2名ずつの参加者が発音や話し方、記憶（暗唱部門）、内容（弁論部門）を競うものです。暗唱部門には機械電気工学科2年の梶泰徹君と土木建築工学科2年の守本愛弓さん、弁論部門には機械電気工学科3年の河野朋基君と情報電子工学科2年の住田みらのさんが出場しました。

梶君はマザー・テレサがノーベル平和賞を受賞した際に行ったスピーチ、守本さんはエマ・ワトソンが国連で行ったジェンダーの平等に関するスピーチを披露し、河野君はテクノロジーの発達がコミュニケーションに及ぼした影響について、住田さんはア

フリカのココア農場における児童労働の問題についてスピーチを行いました。夏休み前から重ねてきた練習の成果を発揮したベストパフォーマンスで、全員が会場を魅了してくれました。

その結果、暗唱部門で守本さんが2位、梶君が3位に、弁論部門では住田さんが3位に入賞しました。中国地区英語弁論大会での入賞は、両部門を通じて4年ぶりとなります。また、4名中3名が入賞するという快挙に会場でも注目を集めました。



高専ロボコン ロボット・ニューフロンティア 中国大会W受賞、そして全国へ

高専ロボコンは今回で29回目となりますが、徳山高専はそのおよそ半分を全国大会に出場していることから強豪校の一つに数えられています。このように全国大会への出場は多いのですが、これまでに競技場（両国国技館）へ足を踏み入れた女子学生は1996年「テクノ・カウボーイ」で全国優勝した操縦者の長野さん（当時）ただ一人でした。ところが今回、20年の沈黙を破って機械電気工学科3年の松崎光紀さんが2人目の女性ロボコンニスト（ピットクルー）として両国国技館に足を踏み入れました。我々にとっては印象に残る大会となりました。

今大会の競技ルールを簡単に説明すると、灯台を建てるための丘がある港町からロボットが接地不可能な海のゾーン（途中、島がある）を渡って反対側の新大陸の丘に塔を建てるというものでした。塔の材料である段ボール箱は港町と島に置かれており、それを海に落ちないように何とかして新大陸まで運びます。徳山のロボットは黒猫号とフィシャ男の2チームのロボットで、それぞれ2台ずつで構成されています。黒猫号は親機が競技場のフェンスを利用して新大陸を目指すというもので、海を渡る予想外のアイデアで会場を沸かせました。フィシャ男は釣り竿を伸ばして港町から新大陸まで橋を架け、直接新大陸に乗り込む機構を持つもので、中国地区大会では天井に届けとばかりに勢よく伸ばした釣り竿

に、会場からどよめきと拍手が巻き起こりました。

このようにして、黒猫号はアイデア賞と協賛企業賞（田中貴金属）で全国大会推薦を受け、フィシャ男はデザイン賞と協賛企業賞（HONDA）で両チーム共のダブル受賞となり、徳山高専のロボットが大変評価された嬉しい結果となりました。

ところが、実情は両ロボット共に多くのアイデアに挑戦したため100パーセント完成した状態で試合に臨めた訳ではありませんでした。競技場裏のピットでは試合直前までロボットの完成を目指して作業を進めていましたし、制御のやり方で論争が巻き起こったりもして、選手達は葛藤の連続でした。

全国大会に於いては、2回戦まで勝ち進むことができました。2回戦では同じ中国地区代表の松江高専に判定負けとなり、私たちの大会は善戦空しくここで幕を閉じました。

来たる2017年度は高専ロボコンが30年を迎える記念の大会となります。このため例年に比ベスケールの大きな大会が計画されています。しかも、この記念すべき年に、中国地区大会が周南市のキリンビバレッジで開催されることになっています。徳山高専のロボコンニスト達はぶっちぎりの優勝を目指して燃えていますので、メインアリーナ席を埋め尽くす皆さんの応援参加をよろしくお願いいたします。



左) 競技の様子 右) 全国大会 ロボット調整 (右が松崎さん)

第27回全国高専プログラミングコンテスト

(平成28年10月8日～9日 三重県伊勢市)

全国の高専生が一堂に会し、自分たちのプログラミングスキルやアイデアを競いました。

課題部門 情報電子工学科4年 森脇友香

私たちは課題部門（テーマ名：スポーツで切り拓く明るい社会）にエントリーしました。Webアプリ「GPSあーとなび」を開発し、Google Playへリリースもしました。スマートフォンのGPSログ機能によって取得された軌跡によって地図上に絵を描くGPSアートを共有、又は作成できます。作成する際にはGPSアートを簡単に作成できる機能やユーザ間のコミュニケーション機能があります。サイクリングやジョギングを楽しみながらGPSアートを作成します。

大きな賞は取れませんでしたでしたがリーダーとして約半年間開発をし、マネジメント管理や内部設計で重

要な点等チーム開発においての難しさや楽しさを学ぶことができました。

競技部門 情報電子工学科4年 山縣将貴

私は、与えられた課題を解くプログラムを作成し、その回答の正確さと早さを競う競技部門にエントリーしました。今回与えられた課題は、30cm四方の枠に直線で構成された多角形のピースを埋めるというものでした。

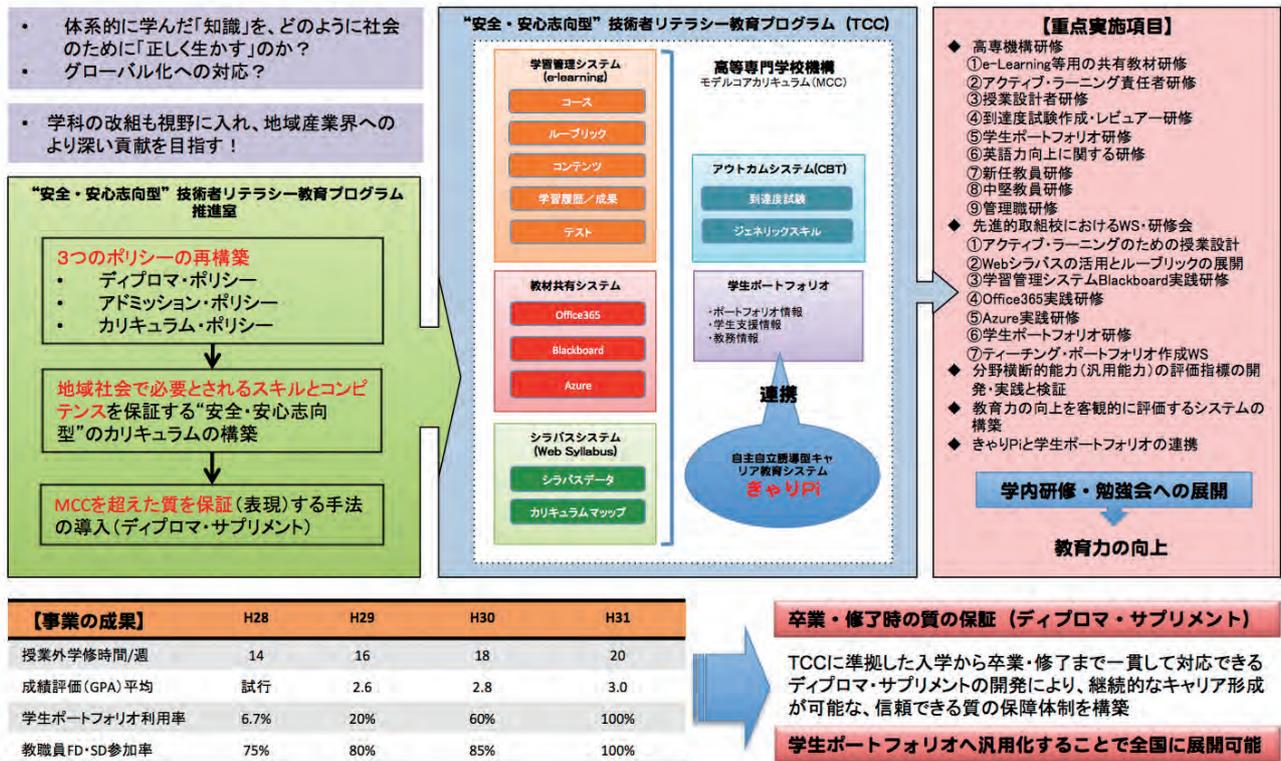
結果は準決勝敗退となりましたが、苦しかった時も仲間と協力してほぼ半年がかりで進めてきたプロジェクトを無事に終えることができた喜びはとて大きかったです。今回得られた貴重な経験をこれからの開発に活かしていきたいと思っています。



徳山高専は、平成28年度より「大学教育再生加速プログラム（AP）—テーマV卒業時における質保証の取組の強化—」に全国の高専の中で、唯一の採択校となりました。このプログラムでは一貫性を持った3つのポリシー【卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者の受入れの方針（アドミッション・ポリシー）】の下、(1) 知識・技能、(2) 思考力・判断力・表現力等の能力、(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を発展・向上させる視点に立ち、社会と連携しながら、教育内容、学習・指導方法、評価方法等を抜本的に転換することが求められています。テーマVでは、入口（入学）から出口（卒業）まで質保証を伴った教育を実現するための総合的な取組を一層強力に推進していくことが期待されています。

AP事業では、地域との強い絆を持つ本校の特色を深め、『技術者としての高い倫理観を涵養する教育を基調として、専門的な技術と高度なリテラシー能力とを併せ持った技術者を養成すること』を目的とし、本校の40年間の経験を活かした“安心・安全志向型”の新しい複合融合教育コアカリキュラム（TCC）を構築します。TCCは、国立高等専門学校機構で定めたモデルコアカリキュラム（MCC）を包含し、本校のキャリア教育システム「きやりPi」を、

本校の卒業生・修了生の教育の質を保証できるように発展させ、それを高専機構の学生ポートフォリオと連動させ、その中で一般化することで、地域産業界に貢献するための安心・安全志向型のディプロマ・サプリメントとして継続的なキャリア形成可能な信頼できる質保証体制の構築を加速させることができます。同時に、本事業により高専機構で構築している各種システムを総合的に実践・改善・運用することで、地域で必要とされるコンピテンス（課題発見能力、倫理観など）を具体的に保証できるものへと検証し、それらを全国高専へ加速・展開することができます。そこでは、社会での実践を常に傍におき、効果的にICTを活用した学生主体の学びの環境の中で、学修単位的大幅導入、クォーター科目群の設定、新しい地域企業におけるインターンシップ手法の導入や柔軟な学事歴への変更などを行っていきます。また、学生の学びを促進する教員の講義力向上や共有教材作成を含めたシステム運用能力向上に対する教職員FD・SD研修を体系的に実施し、それをフィードバックするシステムを整備し、これらを通して、卒業生のフォローアップ調査、評価方法の検証や学生向けイベントの継続実施と分析などにより、TCCを含む教育改革の仕組みを全国高専や大学へ展開できるよう評価・検証していきます。



徳山高専：大学教育再生加速プログラム（AP）概要

さらに徳山高専は、平成28年度より「グローバル高専事業（展開型）」に採択され“青い鳥”グローバル教育プログラムを展開しています。“青い鳥”グローバル教育プログラムは、地域との強い絆を持つ本校が、学生の目を身近な地域に向けさせ、地域企業群のグローバル化を支える人材育成へのより深い貢献を目標としています。そのため、周南コンビナートに代表される地域企業のグローバル化を支える実践的技術者を育成するため、英語力に留まらない、地域のグローバル化における課題を発掘し、それを解決するための能力を育成する教育プログラムを開発することを目的としており、地域の教育資源も活かしたグローバル教育として特色のある取り組みとなっています。

本プログラムはスムーズな中等教育との連携を図るため本科1年生から開始し、

1. グローバル化に対応するための「知識を学ぶための方法」を学ぶ段階、すなわちスムーズな中等教育との連携を図りつつ、技術者として必要とされる英語力の向上を中心として、グローバル化に対応するための基礎知識と基本的スキルを学ぶ段階
2. グローバル化に対応するための「異文化に対する理解」を促進する段階
3. 学んだ知識を身近な地域企業や地域社会のグローバル化への貢献のためにどのように使うか、すなわちグローバル化に対応するための「課題解決力」を身につける段階
4. さらに発展して、習得した知識を縦横無尽に使い、地域企業や地域社会におけるそれぞれの問題意識に根ざしたグローバル化に対応するための「専門的課題解決力」を育成する段階

以上の4つにより構成されます。

特に、グローバル化に対応するための基礎知識として英語力の向上は避けられない課題です。そこで平成29年度から英語科目において習熟度別クラス編成を実施します。中でも本校で先進的に取り組み、効果を上げている「多読・多聴」の授業の中にCLIL（Content and Language Integrated Learning）の手法を取り入れます。CLILの目的は、学習者の自律性を育て、学習者を成長させることにあり、単に英語を教えることなく、学習者が、英語を通じて異文化について興味を持ち、自分自身で英語を使いながら学習を進めて行くことを支援することが教員の大きな役割となります。

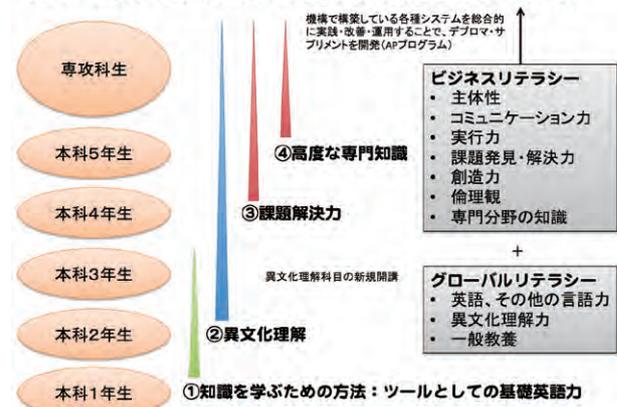
さらにグローバルなレベルで現代の科学技術に対

する理解を深めるため、科学技術領域における、①情報収集の方法、②文献の読み方、③情報整理の方法など、技術者としての基本的なスキルが欠かせません。そこで一般科目理科担当教員が、本科1年における基礎理科系科目「生物基礎」等の授業の中で、世界の科学技術に関する課外活動を含めたPBLを実施することで、①～③を実施し、科学技術領域における基本的スキルを学びます。一般科目教員がこのようなグローバルな実践的技術者教育に積極的に関わることにより、中学校から高等専門学校という科学技術系の高等教育環境へのスムーズな適応と、地域に貢献する技術者としての将来像を、入学直後から育むことが可能となります。

さらに学んだ知識を地域社会への貢献のためにどのように使うか、すなわち地域社会に貢献する技術者としての応用的スキルを学ぶ段階として、4年次前期（夏季休業期間中を含む）に、地域企業や自治体を中心とした「インターンシップ」や「国際ボランティア活動」をキャリア教育支援室、テクノ・リフレッシュ教育センターの協力のもと企画・実施し、地域におけるグローバル化対応への課題の発掘に取り組みます。

さらに専攻科では、「海外インターンシップ」、「短期海外研修」、「語学研修」に参加しやすい環境をクォーター科目の導入などの学事暦の工夫により作り出し、本校で企画する「海外語学研修」や「トビタテ!留学JAPAN」への参加を推進します。また得られたスキルを「実用的に用いる能力」、すなわち「英語による論文・レポートの作成法」「英語プレゼンテーションの仕方」を、「専攻科特別研究」のカリキュラムの一部としてシラバスに学習内容等を明記し、学習します。

グローバルな視点をもって地域社会の活性化を担う人材



“青い鳥”グローバル教育プログラムでは、海外の教育機関との国際交流を促進するための取り組みにも力を入れています。

特に本校においては、日本学生支援機構（JASSO）の支援制度による香港IVE（Hong Kong Institute of Vocational Education）、シンガポール・ポリテクニク（Singapore Polytechnic）、正修科技大学（Cheng Shiu University）、ワランゴン大学（University of Wollongong）などの海外の教育機関との交流活動を推進しています。また、学生や教員の海外交流の促進から教育のグローバル化に繋げる為、積極的に海外語学研修や、「トビタテ!留学JAPAN」などのプログラムを活用した海外留学、専攻科生の「長期海外インターンシップ」の推進をはかっています。

平成28年3月には香港IVEから13名の短期研修生が来校しました。8月24日（水）～9月1日（木）には本校の学生13名が長野高専の学生たちとともに、香港へ海外研修に出かけました。

平成28年度には、本科4年生1名が「トビタテ!留学JAPAN」に採択され1年間のドイツ留学に、また本科2年生がアメリカに約一ヶ月間の留学をします。

平成29年度には、新たに協定校となった大連東

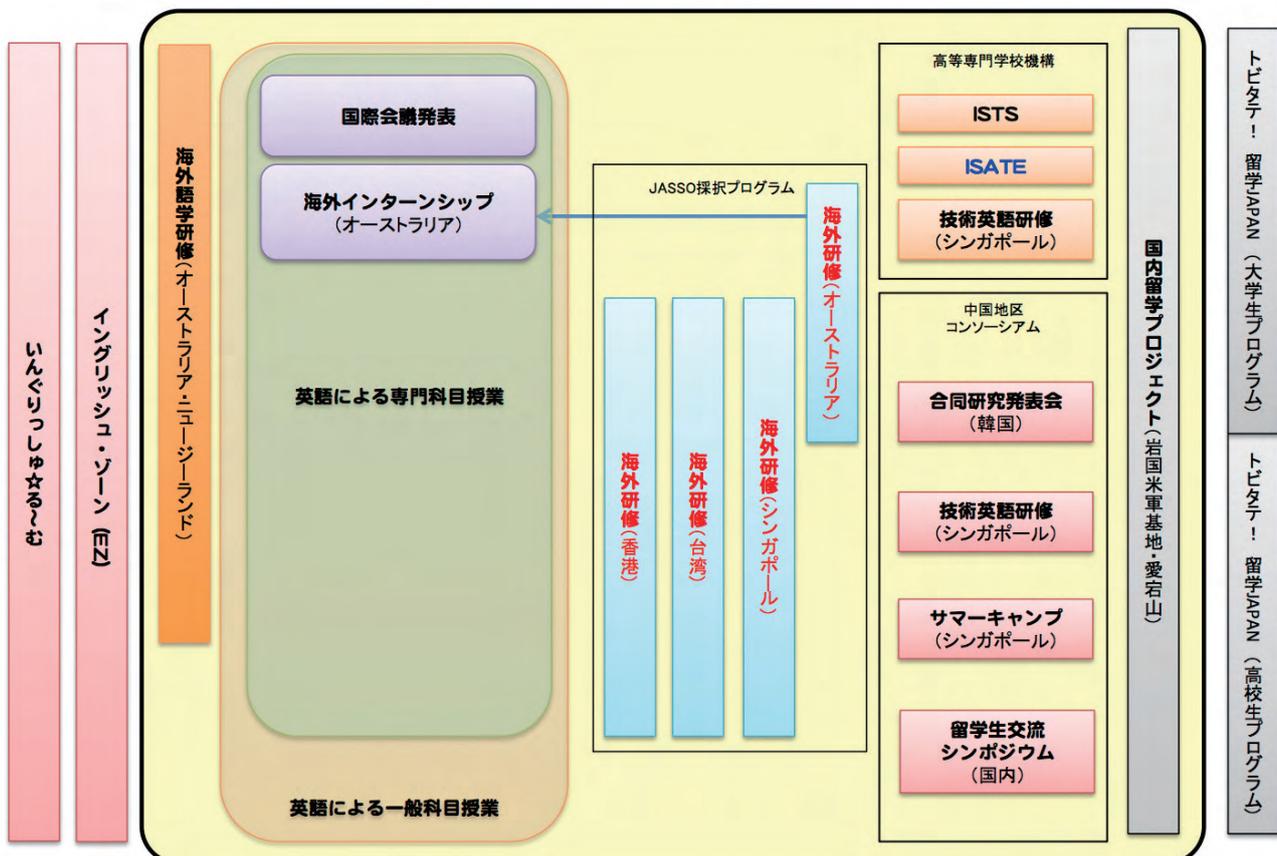


軟信息学院（Dalian Neusoft University of Information）との学生交流プログラムの構築を予定しています。

グローバル化が進むに伴い、経済、金融、その他様々な分野におけるコミュニケーションツールとして英語を使いこなす力が求められています。しかしながらグローバル化とは、英語力のことだけではありません。それは「多様な文化的背景を持った人々を理解し、コミュニケーションを通じて影響を及ぼす力」です。グローバル化の流れの中で、遅れをとらないよう、様々なプログラムを準備していますので、学生たちの積極的な参加を期待します。

“青い鳥”グローバル教育プログラム

*赤字:平成28年度JASSO支援採択プログラム



Look Back 2016

機械電気工学科（機械制御専攻）

私は9月12日から16日までの夏休みの5日間で、宇部興産機械株式会社へインターンシップに行きました。通常は寮に住んでいますが、夏休みは地元の宇部に帰ってきているので宇部の企業を選びました。

内容は工場見学と機械保全や探傷についての座学、フライス盤や手仕上げの実習をしました。工場では学校では見ることのできない大きな旋盤やダイカストマシンを間近で見ることができ、機械分野への関心がさらに高まりました。

この5日間を通して強く感じたことは、時間と安全への意識です。企業の方々は決して時間に対してルーズにせず、休憩時間とのメリハリがありました。また、工場内の道を横切る際は、毎回「右よし、左よし」という声と指差しによる安全チェックが徹底されていました。それらを体験して、普段の自分が怠っていることを再確認する機会にもなりました。

インターンシップでは専門的な知識の向上だけでなく、将来社会に出た時の心得も学ぶことができ非常に有益な体験になりました。

機械電気工学科2年 三浦 建

4年生の今年の研修旅行は3泊4日のマレーシア・シンガポールでした。初日に飛行機でシンガポールに着いたとき、初めて嗅ぐ甘い香りに異国の地に来た、ということ強く感じました。二日目にはマレーシアのバルステンレスの向上を見学させていただきました。工場内で多くの国の人達が英語でコミュニケーションを取っているさまを見て、国際社会で働くということ肌で感じる事が出来ました。3日目のUSSではスタッフの皆様の来場者を楽しませようという気持ちがとても伝わってきて、国は違えど通じ合える気持ちはあるのだということ学べたように思います。最終日は自分たちの力でシンガポールの街を観光しました。初対面の人に英語で話しかける場面も多く、自らの英語力の未熟さを痛感するとともに、コミュニケーション能力の大切さがわかりました。この研修旅行で私は国内にいただけではわからない非常に多くのことを学びました。これから将来を考えるにあたり、この度の体験を活かしていきたいと思っています。

機械電気工学科4年 森本 優

3年生は9月13～14日に国立山口徳地青少年自然の家で1泊2日の合宿研修を行いました。3年生の研修は工場見学が定番でしたが、今年度は徳地アドベンチャープログラム（TAP）を行うことによって、クラスの一体感と共助精神を涵養すると同時に、写真にあるようなハイエレメントという高所での活動に挑戦して自信と自己肯定感を高めることを目的としました。

多くの学生が「また徳地か」という印象を当初持っていたようでしたが、思い通りに動けないハイエレメントや簡単には解決できない様々な課題に挑戦することを通じて、自らの役割を意識することやチームワークの大切さを学んだ研修となりました。



機械電気工学科3年担任 張間 貴史

私は、日本工業大学主催の第8回3Dプロダクトデザインコンテストに応募しました。

今回応募した作品は、シーソーを漕ぐとシーソーが水平方向にも回転するというものです。

当初、シーソーに子供の人形を載せる予定はなかったのですが、人形があったほうがわかりやすいというアドバイスや、水平方向に回転する速度が速すぎるという指摘を受けて、完成後も改善に努めました。その結果、私が設計した「水平回転シーソー」がテーマ部門「新しい遊具」で最優秀賞を受賞しました。



機械電気工学科2年 小川 勝矢

Look Back 2016

今年の情報電子工学科

国際会議 IEEE GCCE2016で Researcher Award を受賞

平成28年10月11日から14日に国際会議「2016 IEEE 5th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE)」がメルパルク京都で開催されました。本会議はIEEE Consumer Electronics Societyが主催する民生用・AV情報家電分野の査読付き国際会議です。GCCEでは特に専門技術の深さや新規性以上に、民生用途のアプリケーションとしての有用性が重視されます。

情報電子工学専攻1年の久保真太郎君は、本会議でRecent Audio & Acoustics Technologyのセッションで「Estimation of Spectral Subtraction Parameter-set for Maximizing Speech Recognition Performance」という題目で口頭発表を行いました。

また、本発表が優秀であると認められ、IEEE Consumer Electronics Society West Japan Chapter より Young Researcher Award が授与されました。本賞はGCCEで優秀な研究発表を行った日本の若手大学研究者を表彰する賞で、論文の筆頭著書でかつ実際の講演者であり、35歳以下で日本の大学に在籍する者が対象です。本年度は久保君を含めて3名の受賞となりましたが、他の2名は修士の学生であり、久保君の研究能力は専攻科1年生にも関わらず他大学の修士の学生にも引けと取らないと言えます。本受賞を糧にして今後の研究活動に精進していただければと願っています。



U-22プログラミングコンテストで 情報電子工学科5年生が経産省局長賞を受賞!

2016年10月2日(日)に東京・秋葉原で行われたU-22プログラミングコンテスト <http://www.u22procon.com/> の最終審査会にて情報電子工学科5年生の片岡駿之介君、野坂峻大君、伊藤駿介君、大峠和基君のチームが開発した学食予約システム「Mealie (ミライ)」が経済産業省商務情報政策局長賞を受賞しました。「ミライ」は、学生証 (Felicaカード) とタブレット端末 (iPad) を活用することにより、教室に居ながらにして、離れた建物にある学生食堂のメニューの予約ができるシステムで、創造演習 (4年後期)・創造製作 (5年前期) の授業での課題として作成したものです。



全応募作品252件の中から事前審査 (41件)、一次審査 (16件) を経て、今回の最終審査で見事、経済産業大臣賞

に次ぐ局長賞を受賞しました。なお、作品のアイデアが高く評価されたことから、局長賞だけでなく、コンテストのスポンサー企業賞も合わせて受賞しました。

審査の様子は、ニコニコ生放送にてネット上でリアルタイムに放送され、5千人以上の視聴者がありました。寛捷彦早稲田大学名誉教授 (情報処理教育分野の国内第一人者) やi-mode開発者の夏野剛氏などの著名人からなる審査員の前で、堂々とした最終審査のプレゼンテーションもこの受賞につながりました。

受賞メンバーのうち2人は、本校の専攻科に進学することもあり、受賞後も、引き続き授業や卒業研究の合間を縫って時間を捻出して、ミライの改良を行っています。



Look Back 2016

2016年度の土木建築工学科

土木建築工学科
渡辺勝利

【1年生】

2016年4月に入学してきた1年生は、4月中旬および下旬に開催された新入生合宿研修や新入生歓迎クラスマッチを体験して、徳山高専の学生の仲間の輪に入りました。中学校よりも長い授業時間、広い試験範囲と長い試験期間に戸惑いながらも、しっかり勉強し、良好な成績を修めています。また、一般教養科目とともに専門科目（測量学、建設材料、工学デザインなど）も学習し、土木建築工学科の学生として日々着実に成長しています。

【2年生】

今年も現場見学に出かけました。見学先は広島県安芸郡府中町の地区揚水管その他新設作業所でした。まず、現場事務所で工事の概要の説明を受け、シールド工法によって施工された坑道、揚水管を見学しました。工事現場の見学後は広島私立美術館の見学に行きました。見学ではバックヤードツアーもあり、大変有意義な時間となりました。



府中地区揚水管その他新設工事（2次）作業所現場

【3年生】

今年度の集中測量実習では、10月11日～14日まで島根県にあるアサヒテングストーンスキー場およびその周辺施設で実習を行いました。まず踏査、選点を行い、続いて骨組み測量、細部測量を行いました。最終日には、CADによって地形図が出来上がり、学生たちの歓声が上がりました。

【4年生】

今年度の研修旅行では、9月14日～18日までシンガポール共和国を訪問しました。ここでは、世界最先端の土木建築構造物や浄水施設、緑化研究



アサヒテングストーン宿泊施設での集合写真



シンガポール大型病院施設新築工事の見学

施設等の見学、そして、日本企業による病院新築工事現場を視察しました。学生たちは、わが国では、なかなかお目にかかれないスケールの構造物と、さまざまな人種・国籍の人たちの中で、生き生きと働く日本人技術者の姿に感銘を受けたようです。

【5年生】

5月11日（水）に前期クラスマッチ、10月19日（水）に後期クラスマッチが開催されました。CA5年は2期連続の総合優勝を成し遂げました。



2期連続総合優勝を果たしたCA5の面々

今年の思い出

留学生研修旅行 (平成28年5月7日～8日)

今年も恒例の留学生研修旅行で「鳥取砂丘、砂の美術館、出雲大社をめぐる旅」として山陰方面へ行きました。

今年度は、新たに2名の留学生を迎え、留学生9名、チューター7名、教職員4名、総勢20名での賑やかな研修旅行になりました。初日は、小雨の中、出発しましたが昼食を取るころには雨もあがり、最高の日和となりました。鳥取砂丘 砂の美術館では、「砂で世界旅行・南米編」がテーマで、砂の巨大な「コルコバードのキリスト像」が圧巻でした。二日目は、水木しげるロードを散策し、花と鳥の楽園「松江フォーゲルパーク」でたくさんの花に囲まれ昼食を取りました。出雲大社の巨大なしめ縄や拝殿、本殿やたくさんの社を見て、また引率の先生から10月には全国の神様が出雲大社に集まる祭りがあるなど説明を受け、留学生は日本の神秘なところを再確認していたようです。



留学生のふるさと展 (平成28年7月9日)

今回で13回目を迎えるこのイベントは、留学生と周南地域の市民の方々との交流を図るイベントです。4ヶ国の留学生が、母国の歴史や文化などをプレゼンテーションで紹介しました。留学生と市民の方の親睦が深まる有意義な会となりました。また、6月24日(金)から7月8日(金)の間、徳山高専夢広場(周南市銀座一番街ふれあいパーク「街あい」内)においてポスター展示をいたしました。

留学生のつどい (平成29年1月14日)

小雪のちらつく厳しい寒波が訪れたこの日、第23回目となる「留学生のつどい」が本校の学生食堂で開催されました。

この会は、留学生が日頃からお世話になっているの方々をお迎えし、感謝の気持ちを表すと共に交流を図るための毎年恒例のイベントで、3月に卒業する留学生の送別会も兼ねています。

本校の留学生に多くの支援をいただいている「徳山高専テクノ・アカデミア」の勝井会長の乾杯の挨拶に始まり、お世話になっている地域の方などから思い出のスピーチを頂いて、会は和やかに進んでいきました。

また、卒業生を送る留学生が自ら制作したスライドショーやビンゴ大会なども行われ、趣向をこらした演出で笑顔の絶えない温かいひと時となりました。



どんな夢でも信じれば叶う

機械電気工学科

ルドルフ ヨガ フタマ

Rudolf Yoga Hutama
(インドネシア)



私は、高校生になり日本でロボットの勉強をしたいとずっと思っていた。その時は僕にとって留学するなんて「砂場の中から一粒のダイヤを探す」みたいなことだった。つまり、無理に近い。しかし、この大きな夢を信じて毎日勉強を頑張り、2013年4月から日本での留学が決まり、一つの大きな夢が叶いました。

東京で1年間日本語を勉強して徳山高専の機械電気工学科3年生に編入しました。最初の頃は困ったことがありましたが、先生方や友達まわりの人が優しく教えて頂いたおかげで高専での3年間の生活が毎日楽しかったです。勉強ではもちろん技術のことを学び、高専祭実行委員会また部活とボランティアの活動でコミュニケーション、チームワーク、そして新しい経験もでき、たくさんの方々とお会いして、たくさんのお友達も作りました。高専生活はあと少しで卒業ですが、ロボット技術をもっと学んでたくさんの方々のために役に立つように頑張りたいと思います。

日本、新世界の冒険

機械電気工学科

シャレン ビン
サイフル ユー

Shahreem Bin Saiful Yew
(マレーシア)



日本は、ずっと小さい時からの憧れた国でした。5年前、高校卒業後、日本に留学するための募集に申し込み合格して、私はようやく日本に行けることになりました。すごく嬉しかったが、家族から離れて、さらに外国に行ったこともない私は不安で仕方ありませんでした。今でもまだはっきり覚えています。ここに来る直前に母は悲しんだ顔で、私にこう言いました「シャレン、私はあなたのことを誇りに思っているよ」。そのとき、私は複雑な感情で、

自分でもよくわかりませんでした。しかし、そのとき1つだけ大事なことを私は思っていました。母の期待に応えるため、私は日本という新世界に入り込んで新しい冒険が始まりました。

2014年4月2日、人生で初めて飛行機に乗り、長い長い道のりで徳山高専にたどり着きました。その時、担任の北村先生にいろいろとお世話になりました。日本のことは何もわからない私はいろいろ迷いました。最初の授業は、ほとんど話が聞き取れませんでした。先生たちは私のためにできるだけゆっくりと説明してもらいましたが、聞き取れませんでした。私はその時、人に迷惑をかけたくない一人で解決しようと思い、日々努力しました。しかしそれは一人で何とかなるものではありませんでした。だから、友達と仲良くして、いろんなことを一緒にやりました。先生たちと友達にいつも助けてもらい、本当に言葉に表せないくらい感謝の気持ちでいっぱいです。改めて、私の旅に入ってくれて、私の3年間の人生の色の一部になってくれた皆さん、ありがとうございました。皆さんのことは絶対に忘れません。これから徳山高専を卒業して、大学に行っても勉強を頑張ります。

三年間の高専生

情報電子工学科

ラジャ マリナ ビンディ
ラジャ ブジャング

Raja Marina Binti Raja Bujang
(マレーシア)



私は、平成26年度春に徳山工業高等専門学校に入学しました。日本へ留学することを決めた理由は、日本の文化や発達した技術に憧れたからです。はじめて徳山高専に着いた時、日本語がまだ上手ではない私は、不安な気持ちを持ちました。

時間が経つとともに、高専の雰囲気になんげづつ慣れてきて、日本に関する文化や習慣なども少しずつ学べました。先生方、事務の方、留学生たち、寮生たち、同級生たちに心から感謝します。

勉強で自分の知識を深めることなどの経験や、家族から離れた生活に慣れるために努力することが自分の成長にとって非常に良かったと思います。日本で留学したことが最良の選択だと思います。

徳山高専の3年間

土木建築工学科

シネフー ナムスライ

Shinekhuu Namsrai
(モンゴル)



4年前に日本文部科学省の奨学金試験を受け、合格できたことは、すごく大きな喜びだったことを覚えています。また、私の家族にとっての誇りでもあります。モンゴルでは日本の技術、特に土木や建築が有名で、日本でその技術を学びたいと望む人が多いです。私もその内の一人で、土木や建築を学び、母国の交通設備、土木施設や都市問題の解決に貢献したいとの思いを胸に日本に来ました。

平成25年に日本に来て、日本語学校で一年間日本語を学んだ後、徳山高専の土木建築工学科の3年次に編入しました。最初の頃は文化の違い、日本語や新しい環境などで戸惑うことも多くありましたが、学生生活を通じて日本語をさらに学習し、そしてクラスメイトや寮の仲間たちが暖かい気持ちで支えてくれたことで日本語が十分理解できるようになりました。そして、たくさんの友達に囲まれ、豊かな学生生活を送ってきました。このことから、やさしく笑顔で挨拶を活発に行う徳山高専生の人柄が大好きになり、自分も自然と明るい挨拶をするようになりました。そして、何より先生方や事務の方々を含めた皆様が大変お世話になり、応援していただいたことに感謝しております。勉強のことはもちろん、たくさんの大事なことが身に付き、とても成長したと思います。これからもいろいろな面で自分はチャレンジしたいと思います。徳山高専の3年寮の3年は、人生に何があっても絶対に忘れない豊かな思い出となりました。皆様、本当にありがとうございます。また、世界のどこかで会いましょう。

夢に向かって

土木建築工学科

シャヒラ ビンティ ユソフ

Syahirah binti Yusof
(マレーシア)



小6の時から、絶対英語を使う国に留学したいと思い始めました。多言語を学ぶことが苦手な私、な

ぜか日本に留学することになりました。高校卒業後、平仮名の勉強からはじめて、苦勞しながら日本語を勉強しました。あまり日本のことも詳しくないので、日本を好きになるため建築のことやドラマなどを見始めました。そのお陰で日本語の勉強を頑張れるようになりました。高専のはじめの頃、日本語がまだ不自由で授業の時、ほとんどわかりませんでした。だが、クラスメイトと先生方に何でも聞き、教えてもらいました。私が理解するまで、一生懸命に説明してもらいました。授業のことだけでなく、生活のことも留学生のお母さんと先輩や、寮の事務の方々にたくさん助けてもらいました。地域の人々との交流も楽しいし、親切な人ばかりと出会いました。3年前、日本に留学することは夢にも見ませんでした。徳山高専で3年間過ごすともっと日本を好きになりました。徳山高専に来て本当に良かったと思います。最後に、誰でも夢を叶えたいと思いますが、本当に夢を叶えられると思いますか?思い通りに行かないこともなるとは思います。一生懸命にチャレンジを続けて、思い描いた夢を叶えられると信じています。

チューターの皆さん

第23回 徳山高専留学生のつどい



左から

I E : 森重 範子 ME : 田坂 優 CA : 高田志保



CA : 中村 航



ME : 渡邊碧為

高城寮より

「凡事徹底」

高城寮の一年（平成28年度） を振り返って

寮務主事 橋本堅一

平成26年度4月より寮務主事を担当しております橋本（土木建築工学科）です。高城寮では、現在男子106名、女子21名の総勢127名が寮生活を送っています。（H29.1.15現在）

標題の「凡事徹底」は今年度の寮生会のテーマ（目標）です。4月3日に行われた寮生会リーダー研修会において、寮生会が議論を重ねて決定したテーマで、「なんでもないような当たり前のことを徹底的に行うこと、または、当たり前のことを極めて他人の追随をゆるさないこと。」と、テーマの意味を把握して行動に移してきました。このテーマの下、寮生会は今年度1年いろいろな活動、取組みをしてきました。

12月18日には寮祭がクリスマス会形式で行われましたが、開催に向けて、高城寮の玄関のライトアップが昨年よりまた一層豪華になりました（写真1）。



写真1 学寮玄関の豪華になったライトアップ

今年度1年も、いろいろな場面で寮生と関わりましたが、「色々なことによく頑張ってくれている」というのが率直な感想です。もちろん問題は全くないわけではありません。しかし、寮生会を中心に今年度の寮生会のテーマ「凡事徹底」をまさに徹底し、様々な問題を解決し、自分たちの寮を少しでも良くしようとしている姿には頭が下がる思いでいっぱいです。

以下、寮生会を中心に寮生が取り組んだ今年度の主な行事について記します。

入寮式【平成28年4月3日(日)】

今年度は1年生34名、留学生2名の計36名の新入寮生を迎えました。保護者、寮務担当教職員、寮生会役員に見守られて、内務部長の上原君の進行で入寮式が始まりました。入寮生を代表して本廣一輝君が宣誓し、和やか雰囲気での式典が行われました。式典の進行は、楽しく心豊かな今後の寮生活を示唆しているかのように、寮生会役員の巧みな運営でスムーズに行われました。



平成28年度 新入寮生と寮務教員

新入寮生歓迎マッチ【平成28年4月16日(土)】

今年はソフトボール、フリスビードッジそしてしっぽ取りゲームで競いました。体育部長の廣澤君の企画の下、寮生が協力して運営を行いました。特に野球場全体を用いて、4チームで行われたしっぽ取りゲームは作戦などが多彩で大いに楽しめたようです。競技の後は屋外でバーベキューを楽しみました。今年は1年生の入寮生が34名と最近では突出した人数となり、全体でも128名とここ数年の2割増しの寮生数となったため、例年よりにぎやかに感じました。



新入寮生歓迎マッチでしっぽ取りゲーム



新入寮生歓迎マッチの後のバーベキュー

勉強会(各定期試験前)

指導寮生長の村上君、学生相談員を中心に、各定期試験の3週間前から1週間前にかけて恒例の勉強会を実施しました。寮の食堂で20:00～21:30まで、低学年を中心に多くの寮生が参加し、集中して勉強を頑張りました。前期は進学希望の5年生が参加してくれたため、例年にない活気がありました。ほとんどの実施日に50人を超える参加者があり、成績も昨年に比べて飛躍的に伸びています。

寮生マッチ【平成28年6月18日(土)、11月13日(日)】

寮生マッチは、前期はバスケットボールとサッカーそしてリレー、後期はフリスビードッチ、ソフトボールそして宝探しで行いました。リレーは第一走者の女子寮生からアンカーの5年生まで6人でつなぎましたが、最後まで接戦で大いに盛り上がりました。後期の新しい試みの宝探しでは、学寮全域を利用して大規模で行われました。番号の入ったカプセル100個に対して、一つも取れなかった寮生もいれば2個、3個と複数のカプセルを取得して、チームに貢献した寮生もいました。



前期寮生マッチでのリレー

七夕会【平成28年7月7日(木)】

今年度は太夫本企画部長の発案でこれまでのホラーハウスを一新させて、そうめん流しと花火大会が企画されました。そうめん流しは当初の50m予定より、流し部が35m程度と短くなりましたが、用意された140束のそうめんが完食となりました。また、花火大会は、市販の玩具花火を全員で楽しみました。



七夕会で甚平や浴衣を着て花火に興じる寮生

寮祭【平成28年12月18日(日)】

3回目のクリスマス会形式としての寮祭が行われました。ケーキコンテスト、ビンゴゲームが行われ、昨年までのプレゼント交換は25日の深夜に寮生会のメンバーが配布していく形式をとることになりました。ほぼ全員の参加で、楽しいひと時を過ごしました。



クリスマス会でのビンゴゲーム

予餞会【平成29年1月13日(金)】

間もなく卒業する5年生を送り出すための予餞会が開催されました。今年も準備から企画運営まで、企画部長の太夫本君を中心に計画的に、多くの寮生が協力して頑張ってくれました。お笑いライブ、ゲームなど盛りだくさんの内容で、とてもいい雰囲気の中、最高に盛り上がり、感動あり、涙ありの素晴らしい予餞会でした。



予餞会の下級生のお笑いライブ



予餞会を楽しむ寮生

第42回 高専祭を終えて

学生会長 原田慎太郎

私たち学生会役員はこれまでの伝統を受け継ぎ、今年で42回目を迎えた高専祭「2hopes」をより良いものにしていくため、様々な企画の立案や計画を行いました。これらは予想以上に難しく、我々学生にとって貴重な経験でした。結果として、「2hopes」というテーマ通り、学生・地域の皆様の期待に応え、無事に大成功を収めることができました。これも多くの方のご支援とご協力の賜物であると、心より感謝しております。

来年度は更により良い高専祭となるよう努力していきますので、今後とも徳山高専をよろしく願います。



高専祭実行委員長 関塚典明

今年度の高専祭は自分たちの希望とそれ以外の希望を大切にし、大きなものにしていこうという意味を含め「2hopes」というテーマのもと活動してきました。

70人近い学生が一つのチームとしてそれぞれの仕事に責任を持って取り組み、一つの大きなものを作り上げてきたという事実は、若い私たちにとって大変貴重な経験となりました。

学生主体の企画とはいえ、教職員の皆様、地域の皆様、そしてスポンサー企業の皆様の協力が無ければ高専祭を開催することすらできなかつたと思います。この場をお借りして御礼申し上げます。

今年の反省点を後輩にしっかり

引継ぎ、来年の高専祭は今年以上のものを作ってくれと期待しています。本当にありがとうございました。

スポンサー部署長 西田将太

スポンサー部署では、高専祭スポンサー活動の運営やお金の管理を行っています。

今年は今までよりも多くの企業の方々にご協力いただいたおかげで、多くの新しい企画に挑戦することができました。そのためとても楽しく思い出に残る高専祭を作り上げることができました。応援していただいた皆様に感謝し、謹んでお礼申し上げます。

メイン部署長 田原佑一

今年度のメイン企画「メイン企画の名は。来来来世。」は高専祭の二日間とオープンキャンパスでたくさんの方が来てくださいました。徳山高専の三学科の技術を合わせた盛大な企画だったので、来場者の皆様には楽しんでもらえたと思います。去年は先輩達の指示に従うだけだったのでいざ自分たちだけで進めるとなるとわからないこともたくさんあり、多くの教職員にご迷惑をおかけしました。また、部署員の仲間達に多くの力を借りました。本当に感謝しています。

私は三年生からメイン部署として活動してきました。二年間とも周りにめぐまれ、優秀な人たちと活動でき、貴重な体験もたくさんできたので、とても充実した二年間を過ごすことができました。来年度のメイン部署のみんなも、このような体験ができることを幸運だと思って、全力で挑みながらも楽しんで活動して欲しいと思います。そして、来年の高専祭で今年より素晴らしいメイン企画の作

品が見られることを期待しています。



ステージ部署 五郎丸直樹

ステージ部署の仕事内容は主に当日のステージ企画の運営、進行です。その他に各企画の準備、ステージ後方を彩る絵の作成があります。

当日直前まで細かいことが決まらず、焦りと不安を抱えたまま高専祭当日を迎えました。しかし、メンバー全員が高専祭を成功させたいと思う一心で努力したため、無事に楽しい企画を二日間やり通すことができました。メンバー全員がプレッシャーと戦い続ける二日間でしたが、終わった後にはたくさんの方に「今年も楽しかった」と言っていただきました。とても嬉しかったです。本当にありがとうございました。

演出部署長 村上蓮太

皆さん、今年のLIVE・ファッションショーはいかがだったでしょうか？演出部署はこれら二つの運営に大きく携わってきました。高専祭後、多くの人から今年のLIVE・ファッションショーはよかった！と言ってもらえて演出部署一同とても感謝しています。当日は、多くの方が見に来てくださり、演出部署としてはこれ以上ない幸せでした。来年度は今年度よりも素晴らしいLIVE・ファッションショーに後輩たちがしてくれると思っています。

最後になりますが、LIVE・ファッションショーを見に来てくださった方、運営に協力してくださった方、本当にありがとうございました。

いました。

➤ 広報部署長 藤山あかり

パンフレットやポスターなど高専祭に関する広報活動を担当しています。

今年のパンフレットは、花をテーマとしてデザインを考えました。部署メンバーの一人一人の得意な部分を生かし、どのページにもこだわりが詰まった一冊になりました。見ていて幸せな気持ちになれる、そんなパンフレットになったと思います。たくさんのお褒めの言葉をいただき嬉しかったです。

このパンフレットが作成できたのも多くの方々のご協力のおかげです。本当にありがとうございます。

部署長という立場は責任感があり、大変な部分もありますが、その分、完成した時の達成感は忘れられないものとなりました。

来年も部署員のみなんで支えあって、素敵なパンフレットを作ってください。



➤ 会場部署長 藤田渉

今回の高専祭を終えて感じることは、僕は部署長という立場で会場部署のメンバーをまとめることの大変さやリーダーとしての役割の大切さを学ぶことが出来たということです。

僕たち会場部署は、当日の交通整備や駐車場や前日企画を担当しました。僕は去年、他部署に所属しており、会場部署の仕事に関しては分からないことだらけでした。しかし、学生会のメンバーにしっかりサポートしてもらい、なんとか部署長としての役割を果たせたと思います。特に、交通整備

の際に多くの方々に来校されていると感じ、とてもうれしかったです。皆様、今回の高専祭を楽しんでいただき誠にありがとうございました。

➤ 案内部署長 寺山萌

私たち案内部署は、高専祭当日の校内を看板や階段アートで華やかに装飾し、当日の案内を行いました。

初めは色々と不安がありましたが、部署員のみんながとても頼もしく、無事に高専祭当日を迎えることが出来ました。この一年間部署長という貴重な経験ができ、本当によかったと思います。今年高専祭に来てくださった皆様、本当にありがとうございました。来年の高専祭はもっとすばらしくなるので期待しててください。

➤ 物品・バザー部署長 葛原佑平

物品・バザー部署の主な仕事は物品の管理、バザーの管理、バザコンの企画・運営です。そのため、高専祭の前日から当日にかけてが仕事のピークでした。今年は前日の準備日に雨が降り、例年と違う動きになり大変でしたが色々な方の協力のおかげでスムーズに準備することができました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

そして、この1年間部署長を務めてきて1人では大変なこともありましたが、その時に部署員をはじめ、みんなで助け合うことの大切さを強く感じました。この経験が自分をもっと成長させてくれたと思います。部署長をやった良かったです。本当にありがとうございました。



➤ 周南ロボコン部署長 佐々木悠介

周南ロボコン部署は、高専祭当

日に行われる周南ロボコンの大会に関する全ての事に携わっている部署です。競技案の考案、フィールドの作成、HPの作成、製作教室などを行っています。

今年は、小中学生を対象とした製作教室を6回行い、約150個ものロボットを製作しました。

また、例年より大きいフィールドで行われた周南ロボコンもとても盛り上がり、大成功だったと思います。部署長という立場で不安でしたが、優秀な部署員達の支えでとても楽しく活動することができました。関係者の皆さん本当にありがとうございました。

➤ 美化部署長 大本明佳

美化部署はカウントダウン看板の作成、ゴミ箱の装飾、献血の呼びかけ、焼きおにぎりの販売を行いました。

今年のゴミ箱とカウントダウン看板見ていただけましたでしょうか？見ていただけた方にはわかると思うのですが、本当に時間がかかりました。今年のゴミ箱は学生会のみんなの協力と部署員の頑張りによって完成しました。今回のゴミ箱は手伝ってくださった方がいなければ完成しなかったです。最後まで頑張ってくれた部署員と学生会のみんなには本当に感謝してもしきれません。

部署長という立場で悩むこともたくさんありましたが、最後までやり抜くことができました。それは学生会みんなの支えがあったからだと思います。そのことを忘れず、2、3年生には来年の高専祭も素晴らしいものにしてほしいと思います。



自分を知り、自分をアピール出来ることが大事！

5年担任 機械電気工学科 准教授 石田 浩一



平成28年度の機械電気工学科の進路状況は、就職22名、大学進学7名、専攻科進学3名です。今年は学生数が32名（内2名留学生）で進学者数が例年と同程度でしたので、就職希望者が例年になく少ない状況でした。

昨年度の企業の採用活動は8月からとなり、企業、学生共に混乱していました。活動自体も実質的に3ヶ月程度長くなり、内定が取れたのかははっきりと確認出来ず悩む学生もいたようです。今年度は昨年度の事もあり、多少改善されると思っていました。しかし、今年度も採用活動が変更になり、6月から開始となりました。昨年より2ヶ月早まった事になります。そのこともあってか企業の採用活動も対応に苦慮していたように感じます。求人に関しても、昨年より多少遅くなったように感じます。例年、学生は前年度の求人を見て希望先を考えるのですが、昨年度は2月末に来ていた求人が今年度は3月末に届くこともあり、学生も最終的な就職先を決められない状況もありました。最終的に今年度の本学科に対する求人数は587社で、昨年度より多少減ったこととなります。しかしながら、企業の高専生に対する求人の意欲は高く、まず高専生から採用したいとの話も多々ありました。結果的には、一昨年の就職状況と同じように4月から採用活動を行う企業も多く、6月から採用活動を行うとした企業もそれまでに説明会等の活動を行っていました。

今年の傾向として、4年次のインターシップや工場見学、会社説明会での学生の対応を企業が重視していたように感じます。求人に対して企業に問い合わせた時、インターンシップや工場見学の企業から学生の態度や適正について説明されたこともあり、選抜方法を色々と考えていると感じました。もともと学生には自分の希望する企業もしくは興味のある職種の企業にインターンシップに行くように指導していたので、悪い評価はなかったのですが、工場見学に関しては、まだ決めかねていた学生に対しては厳しい評価を受けました。学生としてはまだ企業を選ぶ段階だったのですが、企業としては優秀な学生を見極めたいとの思いがあったのだと思います。来年度以降もこのような傾向があると思いますので、悩むことはあると思いますが、常に真剣に企業と向き合うことが大事だと思います。

さて、第一希望の企業を決めた後は、就職試験となるのですが、試験ではSPIなどの適正試験や小論文等の筆記試験と面接があります。高専はほぼ推薦となるので、特に企業が重視するのが面接です。その際、大学生、大学院生と同時に進行することがほとんどです。今年度も例年通り志望動機、高専での活動等聞かれています。

面接に対する準備として、すべての学生が何人かの先生に面接練習をお願いしているのですが、ほぼすべての学生が自分自身をうまくアピールする事ができていません。まず、高専4年間で何を、それによって何を、どのように成長したか問うのですが、何をしたかも言えない学生が少なからずいました。自分がどのような人間なのかをアピールすることは非常に大事で、これが出来ないと言うことは自分自身が分かっていないと思われれます。自分のことすらわからない人間が、周りの人たちを理解することができるのか、本当に職場においてコミュニケーションが取れるのかと言うことだと思います。社会に出た場合、コミュニケーション能力が大事です。自分を理解し、それを説明出来て初めて相手が自分を理解し、コミュニケーションを取ることができるのだと思います。そのために、これからの高専生活で色々なことに挑戦し、自分をアピールできる材料を作っておいて下さい。そしてそこから自分の目標を見つけ、それを話せる努力をして下さい。

最後に、進学を選んだ場合、最終的には就職することを考え、今よりも自主性、協調性、そして創造性を磨いていける大学を見つけて下さい。

就職 中国電力(2名)、日揮、スバル、日立交通テクノロジー、東ソー南陽事業所(2名)、パナソニック、日立ハイテクノロジー、GSユアサ、シマノ、矢崎総業、東ソー東京研究センター、三浦工業、DMG森精機(2名)、TOTO、徳山積水工業、NOK、東洋鋼鉄、オムロン、大分キャノン

進学 北海道大学、東京工業大学、東京農工大学、大阪大学、山口大学(2名)、豊橋技術科学大学、徳山高専専攻科(3名)

体験記①

目標をきちんと決めて

私は去年の6月に面接試験を受け、日立交通テクノロジー株式会社に無事合格し、来年度から新入社員として働くことになりました。4年生の夏にインターンシップに行った会社に就職することになりましたが、そこにたどり着くまでの道のりは決して平たんな道のりではありませんでした。

私はインターンシップに行ったときに日立交通テクノロジー株式会社に就職したいという気持ちが芽生え、この会社に就職することを目標に就職活動をはじめました。就職活動をはじめた当初は、目標の会社が毎年一人は徳山高専から合格していると聞き、推薦で早めに決まると思っており、履歴書も早いうちに下書きを終わらせていました。ところが実際は一般応募しか受け付けられないということが分かり、先生からの助言もあり推薦をやっているほかの会社を探すことになりました。その後、学科に別の会社から推薦の募集があったため、募集があった会社を目標に設定し直すことにしました。そこから急いで履歴書を作成し、工場見学

機械電気工学科5年 藏重 遼



兼面接試験に行きました。しかし、急に目標の会社を変更し、面接練習をする時間もあまりなかったため結局不採用となってしまいました。そこから私は他の会社の推薦に応募するか最初の目標にしていた会社を目指そうか長期間決められずにいました。最終的には最初に目標にしていた会社を目指すことにしました。日立交通テクノロジー株式会社は事前にネット上で選択式のテストを行う必要がありますが、面接試験をもとに採用不採用を決定する会社だったので私は日立と面識がある先生や、担任の先生、研究室の先生など多くの人に面接練習を頼み本番に挑み、その結果面接試験に合格することができました。

私のように目標をあやふやに設定するのではなく、揺るがない気持ちをもって就職したい会社を決め、その目標に向かって真っすぐに努力をすればきっといい結果は得られるので、就職活動が順調にいくように祈っています。

日立交通テクノロジー株式会社

体験記②

出会い～目標

私はこのたび、第一志望である東京工業大学の編入試験に無事合格しました。先生方や家族、友達など様々な人達に支えられ、1つの壁をのりこえていくことができました。私は、東京工業大学では再生可能エネルギーの分野を学びたいと考えており、大学へ進学することにしたのも、この分野に関してより難しく・応用したものを学びたいと思ったからです。

自分の進路に関してこのように考えるようになったのは3年生の終わり頃からで、それまでは進学をしようとは考えていましたが自分が何をしたいのか全く定まっていませんでした。

しかし、上級生になるにつれて、今まであまり話したことのない徳山高専の先生方や、大学へ編入学した徳山高専の先輩方、就職した中学校の時の友達、父の会社の知り合い、家族など、様々な人の「目標」に関する話を聞くようになり、自分もなにか目標をつくらなければだめだと考え始めるようになりました。その後自分でいろいろな大学を調べていくうちに、将来再生可能エネルギーに関する仕事をやってみたいと思うようになり、それを自分の目標にして編入学試験を受けることにしました。編入学試験は決して簡単なものでは

機械電気工学科5年 角廣 泰生



なく、非常にレベルの高いものでしたが、自分の目標に向かって諦めることなく勉強に励むことができたため、無事に合格することができたと私は思っています。

これから進路を考える皆さんにお伝えしたいのは、自分の中で何かしらの目標を掲げたほうがいいということです。この目標というものは1人では恐らく掲げることができないと思います。様々な人に出会い、様々な話をきいて、それらを参考にしつつ最後に自分でまとめてようやく掲げることができるのだと私は思っています。自分がそうであったように、色々な人に出会い、話を聞くということは、目標を掲げることに役立つだけでなく、自分が辛い時の励みにもなります。自分の本当にやりたいこと、つまりは目標を掲げることとは決して簡単なことではないですが、一つ一つの出会いを大切に、いろいろな話を聞き、自分の目標を掲げることができるようになることを祈っております。

私も自分の目標にほんの少し近づいただけでまだまだこれからなので、お互いに頑張っていきましょう！

東京工業大学

今年度の活動を振り返って



5年担任 情報電子工学科 教授 百田 正広

今年度も5年生が社会に巣立っていく時期が近づいてきました。担任として、学生達の将来の活躍に期待しています。

情報電子工学科本科の卒業予定者は39名（内留学生1名）です。留学生は、帰国後に就職の予定です。残りの38名中、就職予定者は28名、進学予定者は10名です。就職・進学予定先を右下表に示します。

毎年、経団連の指針が変更され、本年度の採用試験の実施は6月からとなりました。一部の大手企業の中には、指針を守り6月に採用試験を実施する企業もありますが、新聞等でも報道されているように、フライングスタートする企業が目立ちました。本学科では、早めの準備により混乱はありませんでした。今年度の求人社数は、昨年度より若干増加し約530社となりました。これは、高専学生の評価が非常に高いことに起因していると思います。高専学生は、地頭（じあたま）が良く、手が良く動くと、求人では来校された企業の方々が話されます。これまでに企業に入社し頑張っている先輩達のお陰です。

学生への就職希望か進学希望かの調査（会社名等は不要）を4年の後期開始時に実施し、11月の保護者会までには、どちらかに決めてもらいました。就職を希望する学生には、冬休み終了までに具体的な企業名を第2希望まで考えさせました。調査は1月末～2月に実施しました。希望企業名が決まった学生間で重複しない場合には、担任が企業と連絡を取りました。学生は、応募書類作成時の自己PRや志望動機を書くのに非常に苦労していたようです。先生に添削をお願いし、より良い応募書類にすると良いと思います。応募書類の発送は、3月下旬から4月中旬が多く、一次選考は早い企業で3月に実施されました。応募書類発送前に、選考がある企業もあります。就職活動では3月が最も重要な時期となります。

学生は、会社説明会への参加、OBやOGに連絡をとり、冬休みや春休み等に先輩に会いに行くなど、積極的に活動していました。早く内々定が得られた学生の多くは、将来何がしたいのかを早くから明らかにし、企業、職種についての研究、調査を十分に行っていました。今年度の5年生はフロンティア精神があり、卒業生が最近就職していない企業や先輩のいない企業を学生が希望する傾向

が強かったと思います。県内就職の学生は、例年より少なかったです。1社目で合格した学生は、自由応募も含め78%でした。

Web上などに就職活動についての様々な情報が掲載されています。しかし、就職試験では、ありのままの自分を試験官にアピールし、合格できるよう準備をすることが重要です。そのためには、チャレンジする心（前向きな姿勢）を持つことです。学生会活動、クラブ活動のほか、資格試験、インターンシップ、語学留学などにチャレンジし自分を高める努力をしてください。その経験が、自信を持ってアピールできることに繋がります。1つでも何か見つけておくのと有利です。

進学希望者は、早めに希望大学を決め受験勉強を開始してください。大学により編入試験の出題範囲が異なります。希望大学名の調査は、1月に実施しました。大学編入についてのいろいろな情報がWeb上に公開されていますので、学生達はその情報も参考にしていました。大学によってはTOEICスコアの提出が求められ、編入試験ぎりぎりまでTOEICにチャレンジする学生もいました。編入試験についての情報は各大学のホームページ（HP）で公開されます。願書受付期間が短いため、過去の募集要項を見て早めに準備してください。第一希望の大学への合格率は、80%で、第2希望までの大学へ全員が合格するところできました。

これから就職活動、編入学試験に臨むことになる学生の皆さん、自分を成長させるためにやるべきことは何かを考え、早め早めに行動し目的を達成してください。

就職 JXエンジニアリング、NTTコムソリューションズ、NTTデータMSE、NTTデータフロンティア、アイエムシンクタンク、大阪ガス、オムロン、花王、関西電力、キャノン、サントリープロダクツ、ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ、創夢、ダイキン工業、中国電力、ディスコ、デルタ工業、東海旅客鉄道、東ソー情報システム、日本精蠟、パナソニックシステムネットワークス、日立プラントメカニクス、富士重工業、富士通（2名）、富士通アプリケーションズ（2名）、三菱電機神戸製作所

進学 岡山大学、筑波大学（4名）、徳山高専専攻科（4名）、和歌山大学

体験記③

就職活動体験記

私が高専に入学するきっかけとなったのは就職率の良さだったため、卒業後は就職を考えていました。入学して専門科目を学んでいく中で、電気や電子の分野に関係した仕事に就きたいと思うようになりました。また、地元で働きたいということも考えながら、友だちと求人票を見たり、就職報告書を読んだりしました。そして、4年次で中国電力でのインターンシップに参加しました。ここでは、業務の体験をさせていただいたり先輩社員さんからお話を伺ったりしました。社員のみなさんの仕事に対する真面目な姿勢や雰囲気の良さなどを感じ、中国電力の採用試験を受けることに決めました。その後、4年生の後期から進路支援セミナーに参加し、就職活動で必要になることを学びました。4年生の終わりからは企業研究をしたり、履歴書の作成をしたりと、本格的に就職活動を始めました。私は6月に採用試験があったため、周りに比べてその準備期間を長くとることができました。本番では面接官の方が緊張を和らげてくだ

情報電子工学科5年 森重 範子



さり、無事に面接を終え、内定をいただくことができました。

就職活動を経験して振り返ってみると、準備をして取り組むことの大切さを感じました。私は、先生に履歴書の内容の相談にのってもらったり、友だちに面接練習に付き合ってもらったりしました。準備をしっかりとすることで就職試験での自信につながると思います。私は試験の本番で焦ってしまったので、もっと早く企業研究やSPI試験の準備をしておけばよかった、と思いました。

これから就職活動を始めるみなさん、根を詰めずに適度に息抜きをしながら取り組んでください。就職したい企業がなかなか見つからなくても、焦らないことも大事だと思います。今しかできないことをして、たくさんの経験を積んでみてください。みなさんが実力を発揮できることを願っています。

中国電力株式会社

体験記④

編入試験を経験して

来年から東京大学に進学します。と言いたところですが、2次試験で落ちてしまったので編入試験全体を通しての体験や思いを綴っていこうと思います。

私が大学に編入しようと思った理由は、高専で学んだことの中で、自分の興味を持った人工知能の分野を大学で専門的に学びたいと思ったからです。また、たくさんの知識を蓄えて社会に出ることが大事だと思ったからです。そのために大学は、国際交流が盛んで、勉学の意識の高い学生がたくさんいて、勉学の環境が整っているところにしよう決めました。なので、東京大学なら自分がやりたいことに集中して取り組むことができる環境であると思い、第1志望にしました。

ですが、最初は不安でいっぱいでした。また、編入のための勉強の日々は大変でした。TOEICの点数が思うように上がらなくて自信を失ったり、ひたすら勉強をし続けることに疲れたりもしました。そんな時は、大学に入ったときのことを考え

情報電子工学科5年 長尾 恭太



ることで乗り越えてきました。就職をする方が良かったのではないかなと思うこともあったので、このようなことはとても大切だと思います。

勉強の面では、自分がどうしても分からない問題は先生に聞くことが大切です。一般科目にしても専門科目にしても先生はたくさんの知識を持っているので、解決しなくともいいアドバイスをもらうことができます。先生に聞くことが厳しければ友達でも良いと思います。一緒に解決することで互いの知識の増強に繋がりました。

進学を目指す理由や進学先の決め方、勉強法は人それぞれだと思うので参考程度の私の体験でしたが、後輩には試験の際に「自分は誰よりも勉強したから合格できるんだ！」という自信をつけて欲しいです。この原稿を書いている中で、第1志望に落ちた後悔が蘇ってきたので、早い段階からコツコツと頑張ってもらいたいです。

筑波大学情報学群情報科学類

志望動機を明確に、真の実力をつけることが大事



5年担任 土木建築工学科 教授 上 俊二

平成28年度の土木建築工学科5年生の卒業予定者は44名（男子32名、女子12名）です。全員44名の進路が決定しており、内訳は就職では民間企業が16名、公務員が8名、進学では本校専攻科が11名（推薦11名）、大学編入が8名（推薦2名、学力6名）、研究生1名です。

民間企業就職では、昨年度は経団連の指導により大手企業の求人開始が8月に変更になり幾らか混乱があったようですが、今年度は6月に変更になり、殆ど混乱はありませんでした。今年度の土木建築工学科への求人数は327社と平成26年度から3年続けて300を超えた会社からの求人をいただきました。これは、数年前に建設業界は公共事業の削減などから新卒採用を大幅に控えた影響で震災の復興事業や2020年開催の東京オリンピックに向けて若手技術者の確保が必要となりここ数年売り手市場となっている感があります。求人については昨年の9月より始まり各企業の人事担当者との面談をしました。また、就職希望者への説明会を希望する企業については12月～1月にかけて説明会を実施しました。5月までに殆どの企業で就職試験があり、6月までに殆ど内定が決まる状況でした。民間企業就職希望16名の内、第一希望の企業にすんなりと内定が決まった者は14名（このうち4年次のインターンシップの受け入れ企業に決まった者が6名）、惜しくも第2希望で内定が決まった者が2名という状況でした。第1希望の企業に決まらなかった2名については何れも最終面接で不合格となり、自己アピール等が十分に出来なかったように思います。

公務員就職の求人についても、一昨年から大幅に採用予定人数が増えており、今年度も国土交通省をはじめ、山口県、近隣市役所の人事担当者が頻りに本校に訪問され、公務員希望者に対する説明会や座談会を実施しました。今年度は公務員就職希望者が当初9名いましたが、8名は希望通り第1志望の国土交通省、県庁、市役所に就職が内定しましたが、1名は途中から民間就職に変更しました。公務員の就職試験については第1次試験（筆記試験）に合格することが第一条件ですので、まずこれに合格するよう早めから準備する必要があります。第2次、第3次試験は民間企業と同じく面接試験が課され、面接試験が無難にこなせば合格がもらえると思います。

進学希望については、数年前に比べ民間企業、公務員の就職状況が良くなり、進学希望者が幾分少なくなった感じがします。本校専攻科の推薦入試は11名全員が合格しましたが、学力試験では3名中1名のみ合格でした。他大学の編入試験では推薦で2名、学力で6名が合格しました。数年前に比べ、他大学への編入進学は容易になった感があります。これは民間企業の求人と同様に大学より先生が来校され大学編入の説明会が何回か実施されましたが、編入した卒業生の実績や評判がよいので優秀な学生が欲しいというものでした。今年は進学希望の殆どの者が第一志望の大学、専攻科に進学することが出来、結果としてはほぼ順調だったように思えますが、合格者は受験に向けて早くから準備をしていたことが勝因であったように思えます。

土木建築工学科では4年時の工学セミナーの授業では民間企業、公務員、進学の3グループに分かれ進路指導を行っています。また、キャリア支援室からの指導（エントリーシート・履歴書の書き方、卒業生の就職体験談、面接練習）が充実しており、学生の就職・進学活動に対する知識・意識が効率的に向上したように思います。このような環境の中、ここ数年は就職、進学状況は良くなっていますので、志望の動機を明確にし、試験に向けて早めの準備をすることが必要になってきます。真の実力さえ着けば希望のところへ進むことができますので、日頃からの学生生活を大事に過ごしてもらいたいと思います。

就職 山口県、周南市役所（2名）、広島市役所（2名）、国土交通省（2名）、光市役所、勝井建設、安本建設、三洋コンサルタント、鹿島クレス、東洋建設、PS三菱、中国電力、トラバース、乃村工藝社、宇部建設コンサルタント、ネストハウス、三和建設、NTTインフラネット、五洋建設、新技術工営、NIPPO

進学 徳山高専専攻科（11名）、熊本大学、山口大学、大分大学（2名）、横浜国立大学、長岡技科大学、豊橋技科大学、千葉大学、徳山高専研究生

体験記⑤

乗り越えてきた岐路を信じて

私が乃村工藝社への就活を決意したのは12月頃でした。当時私は乃村工藝社に入社できる確率が極めて低い事から第一希望の企業を別の中堅ゼネコンの企業にしていました。会社説明会という形で乃村工藝社の人事部の方が徳山高専を訪れ、集客空間という心躍る仕事について深く知った時、私は自分のやりたい事を仕事にしたいと強く思いました。思えばこの50分間という説明会が私にとって運命的な時間であったと思います。

就職活動をすると皆、必死になって過去を辿ります。自分が今まで何をしてきたのか、何を頑張っていたのか、自分の人生を左右する分岐点を「岐路」と言います。過去を辿り見つけた就職で使える武器は恐らく、岐路に立たされた時の自分であると思います。そんな悩み苦しみ選択した出来事が志望動機や自己PRといった就活の必須項目を埋める事になります。

私にとっての大きな岐路は二つです。一つは3年生の時に右手の小指を骨折した事です。10年間

土木建築工学科5年 清水 大



続けてきたバドミントンの最後の中国大会予選の前で、絶望の淵にありました。しかしチームメイトや競技人生に密接に関わっていた父のおかげで諦めず努力を続ける事ができました。二つ目は寮生会長になるという選択です。寮長というのは寮生をまとめる事や行事を企画運営するもので、苦勞することは分かっていました。実際口には出しませんが、先輩や同級生、後輩の要求に応える事は大変でめげそうでした。しかし、寮生会の仲間と職務を全うし、寮生会活動を運営した事は私の人生の財産になったと今でも思っています。

私が就活を終えて皆さんに言いたい事は一つです。過去の自分に自信を持って下さい。人それぞれ乗り越えてきた岐路があります。あなたの歩いてきた岐路は誰が何と言おうと、かけがえのない宝です。その宝を信じて、就活という壁を乗り越えて欲しいと心から願っています。

乃村工藝社

体験記⑥

これから受験する後輩たちへ

私が受験勉強を本格的に始めたのは4年の後期からです。低学年の頃ゼネコンの存在を知り、将来はスーパーゼネコンに入って現場監督になるのが勝ち組なのだ勝手に思い込んでいました。実際に4年次にはインターンシップで大手ゼネコンの現場施工の業務を体験させてもらいました。そこで私は充実した時間を過ごせた半面、自分の知識不足を痛感し本当に高専卒業後就職していいのか疑問に感じました。就職はこれから先40年の人生を決める選択肢です。それを今できるほど私は世の中のことを知らず、視野を広げるため進学することにしました。

進学すると決めたら、まずは受ける大学を決定し綿密な受験計画を立てることをお勧めします。過去の先輩方の話を聞いていても、受かるためにいつまでに何が必要かを分かっている人は大体合格しています。私の場合、受験で得た知識をこれからに生かしたいと思い、専門科目の学力試験をおこなっている大学、国際性豊かで編入後に留

土木建築工学科5年 中村 航



学する機会のありそうな大学、地球環境との共存に力を入れている大学を基準に受験校を決定しました。

さて実際の受験勉強ですが正直辛いです。覚悟して望んでください。でもここで苦勞話を書いても仕方がないので辛くなったときの対処法をいくつか教えます。まずは理想の大学生活を友達と語り絶対に合格すると自分に言い聞かせることです。心が少し楽になります。また“ドラゴン桜”のドラマを見るのもお勧めします。そして受験勉強中は閉鎖的になりがちですが、意外と周りの人は気にかけてくれているのでしっかり頼りましょう。決してあなたは一人じゃないです。最後に生活習慣を整え寝ましょう。私は23時を過ぎたらベッドに入るようにしていました。

受験は自分の弱さとの闘いです。時間を有効に使い後悔しないようにしてください。後輩たちの受験がうまくいくことを心より願っています。

横浜国立大学

就職・進学状況

グローバル化社会の中で

機械制御工学専攻幹事 機械電気工学科 准教授 三浦 靖一郎

今年度の機械制御工学専攻の求人社数は508社でした。求人社数は確実に増えており、社会に対する専攻科の認知度も向上していることが伺える結果となりました。

この状況の中で、本専攻修了予定の学生は4名であり、うち3名は大学院進学希望でした。学生4名は大学生同様に自発的に活動する力を持ち、かつ、目標を定めて日々の活動をしていたこともあり、進路を心配することはありませんでした。同世代の大学生の様子を見てみると、工学系の学生は大学院修士修了が主流なので、学生の選択は標準的といえます。

2016年、日本の大手電機メーカーが初めて外資の傘下に入るという出来事がありました。これは、一昔前まで安定と思われていた大企業・グローバル企業であっても、方向を誤るとグローバル社会の波にのまれる可能性がでてきたことを意味して

います。

もちろん、私たちの生活や経済活動は、グローバル化によって多様性と普遍性の両方から影響を受け、大まかに言えば、人は多様化へ、制度や規則は普遍化へ進むと予想されます。

このことを踏まえると、日本電機メーカーの外資傘下入りが起こったことで、従来の日本式の採用方法や、これまで守られていた日本人の優位性が変わることにつながるため、今後教育機関にも影響が出てくると考えられます。私たちも世界の動向に注意しておかなければならないと感じた一年でした。

就職・進学先 東京工業大学大学院、東北大学大学院(2名)、NOK株式会社

就職・進学試験体験記

体験記⑦

Create my Future～未来を切り開け～

私は当初、本科卒業後は大学へ編入学をしようと考えていました。しかし、具体的な将来が不鮮明であったことや本科での研究を長く続けていきたいという思いから、専攻科への進学を決めました。さらに、専攻科での研究で取り扱う超音波やCFRP(複合材料)の道を究めたいと思うようになり、大学院への進学を決めました。各分野を専門とする研究室や、進学に必要な事項等を調査し、春休みには実際に研究室を訪問しました。最終的に東京工業大学と九州大学の複合材料を専門とする研究室に絞りました。

研究室を決めたあとは、大学院のホームページに掲載されている過去問や想定問題を参考に受験勉強を進めました。高専で習得した科目を中心に選択しましたが、勉強しないうちに忘れていた知識も多く、これまでの勉強不足を痛感しました。

入試には、筆記試験のほかTOEIC等のスコアシートの提出を求められます。英語には入学当初から関心があり、英語に親しむ同好会や多読を通して親しんだり、TOEICを何度も受験したりと、

機械制御工学専攻2年 木村 開



積極的に取り組んできたため苦になりませんでした。

そして迎えた東京工業大学の筆記試験。実際の入試問題は想定問題を遥かに上回る難易度で、授業で習わなかった分野もありました。しかし、最大限の記憶と知識を振り絞り、できるだけ多く解答欄を埋めることを心がけました。不合格かと思いきや、合格との発表を見て驚きました。その後の筆記試験合格者対象の面接試験では、これまでの研究成果や入学後の意気込みをはっきりと述べ、無事に合格へと辿り着きました。今は大学院での授業に向けた予習に取り組んでいます。

「自分の未来は自分で切り開く」というのが私の名前の由来、そしてモットーです。名付けてくれた両親に感謝しています。ゴールの設定、そこに至るまでの試練、そしてその乗り越え方も結局は自分次第です。みなさんも自分の可能性を信じて、最後まで諦めずに頑張ってください。

東京工業大学大学院

就職・進学状況

日々の研鑽を大事に



情報電子工学専攻幹事 情報電子工学科 教授 高山 泰博

今年の情報電子工学専攻2年生は、1名の休学者を除いて7名が進路選択に臨みました。そのうち、2名が就職を、5名が大学院進学を進路として選択しました。

就職では、以前は自由応募で就職先を探す専攻科生もいましたが、今年度は2名とも推薦によって知名度の高い企業に就職先を決めました。高専の専攻科修了生の優秀さが次第に伝わって、大手企業でも特別な枠で採用を考えてくれるところが増えてきたことの表れかと思われまます。一方で、本科を卒業してさらに2年間が経っているので、大学学部や大学院生と比較して本人の力量が問われることとも確かです。

進学では、5名全員がトップレベルの研究拠点となる国立大学の大学院に合格することができました。入試の形態としては、推薦入試に合格した者、複数の大学院に合格した者、最初の入試では不

格だったものの再度同じ大学院の2回目の入試に挑戦して合格した者など様々です。今年度はどの学生も情報系の研究科でさらに磨きをかけることを希望しています。

いずれの進路を選ぶにしろ、本人の実力だけではなく諸先輩の実績のもとに選ばれたと考える必要があります。この状況を維持していくためには、試験前そして試験後にも、専門科目、教養科目いずれにおいても日々の研鑽を常に絶やさずに努力していくことが必要です。

就職 株式会社日立ハイテクノロジーズ、MHI 情報システムズ株式会社

進学 奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科、九州大学大学院システム情報科学府、筑波大学大学院システム情報工学研究科、東京工業大学情報理工学院情報工学系

就職・進学試験体験記

体験記⑧

大学院進学活動体験記

情報電子工学専攻2年 久保 一雄



私は専攻科入学時、大学院に進学したいと考えていましたが、具体的な進学先はまったく決めていませんでした。私が本格的に進学を意識するきっかけとなった事は、九州大学のユビキタス研究室へのインターンシップでした。2ヶ月間、年上の研究室メンバーと共に開発プロジェクトに携わっていく中で、ハードとソフトの両方の面白さを兼ね備えたユビキタス分野へ進学したいと考えるようになりました。また、自分の実力も大学院で十分通用すると肌で感じる事ができ、大学院入試へのモチベーションが上がりました。

インターンシップ後、私は様々な大学のユビキタス研究室を調べ、研究室訪問を行いました。そして、最終的に奈良先端科学技術大学院大学、九州大学、東京工業大学を受験しました。すべての大学院で合格する事ができましたが、東京工業大学のユビキタス研究室へ進学する権利を得る事ができませんでした。そのため、インターンシップ先でもあった九州大学への進学を決意しました。

大学院進学を考えている皆さんへのアドバイスとして、是非、インターンシップ先の研究室だけではなく、様々な大学の研究室を訪問してください。同じ分野でも取り扱っているテーマが微妙に異なり、本当に面白そうだと感じる研究室を見つける事ができると思います。興味のある研究室を見つけたら、必ず過去問の解答例と合格ラインの情報を聞き出しましょう。次に、受験勉強はできるだけ早めに取りかかる事をお勧めします。受験時期は学会やレポート提出などでとても忙しく、私の場合は九州大学の受験日と学会予稿の締切日が重なり、受験前2週間は全く勉強できませんでした。最後に、大学院試験における英語の配点はそこまで大きくありません。私の場合はTOEIC590点で合格できました。しかし、大学院進学後はそれ以上の英語力が必ず必要になります。英語の対策も忘れずに。

九州大学大学院（情報知能工学専攻）

就職・進学状況

好調な社会資本整備を背景に

環境建設工学専攻幹事 土木建築工学科 准教授 目山 直樹



震災復興にともなう基盤整備需要、合併特例債による堅調な公共投資、東京オリンピックを背景とする公共建築はじめ各種のプロジェクトの喚起など、土木・建築分野において、堅調な建設需要が続いている。

山口県下をみわたしても、山陰自動車道、下関北九州道路などの高規格道路の整備プロジェクトが着実に進展しつつあるし、平瀬ダムにみるように、新規のダム建設もはじまっている。また、各市町では、合併後の市庁舎建設がピークを迎えるとともに、鉄道駅、病院、大学、初等中等教育施設、福祉施設、コミュニティ施設関連で建築需要が高まっている。これらの堅調な公共投資を背景として、建設系、インフラ系企業の採用も伸びてきている。

専攻科生は大学生と同様に、自由応募を基本としているものの、高専専攻科に対する高評価が定着してきたためか、企業側が途中から学校推薦を申し出るケースもあり、大学生の就職にみられるような熾烈さはないようにも感じられた。

このような状況を受けて、民間就職希望の学生たちは、早々と内定を取り付け、この春、エンジニアの卵として巣立っていかうとしている。また、公務員受験組も順調に合格の報を手にし、公共サイドの技術者の卵として、その門出を準備しているところである。大学院進学志望者の結果が待たれるところであるが、今年度修了予定者も順調に進路を決め、春に学業を終え、社会に、次の学びの段階に、送り出す準備をしている。

次年度も多くの進学者を迎える予定であり、高専専攻科の教育・研究がますます充実していることを実感している。学生ならびに保護者のみなさまに、ぜひとも、専攻科進学を検討していただきたい。

就職・進学先 大成建設、NEXCO西日本、広島市役所（建築職上級）、プランテック、防府市役所（土木職上級）

就職・進学試験体験記

体験記⑨

高専生の強みを活かす

環境建設工学専攻2年 西村 もえぎ



私は高専入学時から、建築デザイン（意匠設計）に携りたいという漠然とした目標がありました。そのためには大卒を目指し、多くの技術と知識、感性を磨かなくては意匠の分野で勝負できないという思いがありました。その上で進学先として専攻科を選んだのは、長期インターンシップに加え、在学中に二級建築士が取得できることが就職に向けていい経験になると考えたからです。

在学中、本科から合わせると7社インターンシップに参加し、個人設計事務所や建設現場などさまざまな業種に行きました。なかでも長期インターンシップで参加した建設現場では、現場の動きや厳しさを理解できる設計者になりたいという目標を持ち、勉強させていただきました。この経験は私のアピールポイントになりました。今思えば、意匠設計職に就けたのも、大学生とは一味違う高専生の強みである「実践力」をしっかりとアピールできたからだと感じます。

本格的に就職活動を始めたのは、1年生の11月

頃で、冬のインターンシップに積極的に参加しました。直接お話をする機会をいただいたり、職場の雰囲気を見学したりするのは貴重な経験だったと思います。気になる企業には赴き、1ヶ月近く東京や大阪に住む友達にお世話になりながら、ひたすら就職活動に打ち込みました。

就職活動のアドバイスとして、働いてみたいと感じた会社をよく調べ、機会があれば会社の雰囲気を自分で確かめに行く。同様の業種の中でどうしてその会社がいいのか考えるためにいくつか見てみるのもいいかもしれません。私は多くの企業をみて、より就職先の会社への憧れも深まり、面接にも自信を持って臨めたと感じています。

早め早めに準備を始め、決して受け身ではなく、積極的に行動することできっといい結果につながると思います。みなさんの進路希望が叶うことを心から願っています。

プランテック総合計画事務所

進学・就職を振り返って

機械電気工学科 第29期卒

機械制御工学専攻 第13期修了

九州大学総合理工学府 物質理工学専攻 修士課程修了

株式会社 安川電機

大野 充孝

はじめに、私の経歴を簡単に紹介したいと思います。私は本科、専攻科を修了後、九州大学総合理工学府の物質理工学専攻へ進学しました。所属した研究室では、人工関節の応力解析に関する研究に取り組みました。専攻科でも人工関節に関する研究をしていたことから、さらにその知見を深めたいと考えたことが、進学先を決めた最も大きな要因でした。

そのような流れから、就職活動時にはそれに関連するメーカーへの就職も当然視野には入っていたのですが、その頃になるとまた新たな思いが生まれていました。私は本科在籍時には、専攻科とは違う研究室に所属し、制御工学に関する研究をしていました。諸事情あって研究室を移ったのですが、そのことを振り返り、制御工学と生体工学、それまでに培ってきたこの2つの知見を総合して活かせる仕事をしたいという思いを抱いたのです。その中で、現在の職場である安川電機の情報が目に入り、モータ・産業用ロボットのメーカーであり、医療ロボットの開発にも力を入れようとしているこの会社に非常に魅力を感じ、入社を志望しました。

ただ、入社してからは、当初の希望である医療ロボットの開発ではなく、システムエンジニアリング事業部のシステム開発部に所属し、低圧、高圧インバータ関連の構造設計に従事しています。当社はモーションコントロール、ロボット、インバータ、システムエンジニアリングの4つの事業部と、開発研究所等を含む本社から構成されます。その中の当事業部では、鉄鋼や水処理等、プラント設備の産業用システム電機品を開発、生産しています。構造設計の主な業務は、開発機器の筐体設計であり、そこでは強度、熱、絶縁等、様々な設計要件を検討する必要があります。自分があまり知らなかった分野への挑戦になり、はじめは不安もありましたが、学生時に身につけたCADやシ

ミュレーション技術等のスキルを非常に活かせる環境であり、そこにやりがいを感じて日々の業務に取り組んでいます。

さて、その立場でこれまでを振り返って思うことですが、実は私は8年前に専攻科を修了した際にも、高専だよりに寄稿しており(2008年度、No.62)、本文を執筆するにあたり、当時の高専だよりを読みなおしてみました。そこでの私は「準備は早めに」と書いていました。これは今でも大事なことだと思っています。それに加えて、大学院生活と就職活動、そして会社での経験をふまえた現在では、「変化に対して柔軟に対応することが重要」だと考えています。この変化とは、自分の置かれた環境の変化でもあり、自分の意思の変化でもあります。

変化に対応するには、それを支える地力が必要です。それを鍛えるには、勿論普段の勉強も大切ではありますが、学生の皆さんにはぜひ、校内にある様々なツールを“遊び倒して”欲しいと考えています。高専にはPC(CAD、プログラミング)や工作機械等、様々なツールが揃っています。そして、演習や、例えば高専祭のようなイベント等で、それらを15、6歳の頃から自由に使える機会に恵まれています。それらをぜひ活用してください。一見くだらないようなことでも良いと思います。“こういうことをやってみたい”と自分で考えてそれを実行した経験は、授業で言われたことをそのままするよりも遥かに身につき、とっさのときに生きてきます。まさに今、私は業務の中でそれを感じています。

最後に、余談になりますが、私達のクラスは今年で本科卒業から10年を迎え、それを記念した同窓会+新年会を先日開催しました。久しぶりに見る顔ぶれに月日の流れを感じつつも、学生の頃と変わらないノリと雰囲気盛り上がり、クラスの団結とそのありがたさをあらためて感じた次第です。皆さんも仲間と共によく学びよく遊び、有意義な学生生活を送れるように願っています。



ME29期同窓会にて

卒業後10年を振り返って

情報電子工学科 第29期卒
(株)インフォコム西日本
松田 りえ

今回、在校生向けのキャリア体験談がご縁で、情報電子工学科小林先生、杉村先生より高専だより寄稿のご依頼をいただきました。

今までを振り返る良い機会を頂いたので、高専生活の思い出と、卒業後のことを記載させていただきます。

高専生活の思い出

在学中のことで、やはり一番に思い出されるのは、寮生活でした。入寮した当日は、女子寮の高い柵と警報に圧倒され、とんでもないところに来てしまった…と思ったのです。しかし、姉妹のように優しくしてくれた先輩・後輩や、いつも一緒に居てくれた同級生と一緒に過ごした日々は、忘れられない思い出ばかりです。普段から夜中までとりとめのない話をしたり、試験前には一緒に勉強したり。見たこともないような虫の退治は怖かったし、門限も早かったので、当時は不自由に感じていたこともありました。今思うと、日常がとても楽しいことにあふれていたような気がします。15歳で家族と離れたことを寂しく思う時もありましたが、同時に、有り難みを感じることも早かったように思います。

その他にも、山のような実験レポートが大変だったことや、吹奏楽部の部活動のこと、友人が手伝ってくれた高専祭メイン企画のLED半田付けなど、思い出すときりがありません。総括すると、本当に周りの人たちに恵まれていた5年間だったなあと感じます。

今でも仲良くしてくれる友人や先輩・後輩、学校へ遊びにいくと暖かく迎えてくれる先生方に、本当に感謝しています。いつもありがとうございます。

卒業後に感じること

卒業後はインフォコム西日本に入社し、医療情報システムの導入SEとして業務に従事しています。1年目は、主に社内でパッケージのカスタマイズをしたり、資料やマスタ作成など先輩のお手伝いをしたりすることが多かったのですが、段々と社外に出て行き、システム導入の打ち合わせからシ

ステム稼働、保守作業まで一貫して担当するようになりました。システムのデモ等の出張も含めると、北海道から沖縄まで、いろんな地方へ出張をさせてもらいました。

その中で、私が仕事をしていく上で大事にしてきたこと、今後も大事にしたいことを、自分への教訓の意味も込めていくつかあげてみたいと思います。

まず大事なことは、やはりコミュニケーション力です。新人の頃は、伝えたい事がうまく伝わらない…と悩むこともあり、もどかしく思ったことも多々ありました。ありきたりですが、メール・報告書の文章は一步引いて、読み手の立場で読んでみることで、少しずつ改善できたのではないかと感じています。システムのデモや操作研修などは、自分で録音して聞いてみることで、客観的に課題が見えてくることもありました。それから、伝えることが上手な先輩・上司を参考に、何が自分と違うのかを比べてみる、というのも近道だったように思います。

次に、多方面に関心を持つ事。どの業界も同様だと思いますが、医療業界でも、医療情報の知識はもちろん、2年に一度やってくる診療報酬改正など、知っておかなければならないことは山のようにあり、都度更新されていきます。それらに対し、目先の情報だけでなく、多方面にアンテナを張る事は必要です。

情報を多く持っているということは、それだけ使える道具が多いということだと思います。関係ないと思っていたことから、想定外の不具合を回避できたり、ユーザ様から要求された以上の機能を提供できたりすることも、これまで多くあったように思います。

最後に、仕事は一人でやっているのではないという事。私自身、忙しいとつい周りが見えなくなってしまう。そんな中で、周囲に心配りができ、明るく声をかけてくれる先輩には何度も助けられました。一緒に仕事をしたい人というのは、こういう人だろうな、私もそうありたいなと常々思います。

長々と書きましたが、今置かれている環境に感謝することを忘れず、これからも楽しく頑張っていきます。

「常に向上心をもって」

土木建築工学科 第36期卒
大成建設株式会社
野間 彩花

「地図に残る仕事。」それが私の仕事です。

私は、2014年に土木建築工学科の本科を卒業し、今の会社に地方採用（中国地方）の枠で入社しました。最近なにかと話題になっているゼネコンです。皆さんのゼネコンへのイメージは、あまりいいものではないと思いますが、今回はそんなイメージが少しでも良いものになってくれたらと思っています。

入社してから

はじめて配属された現場は、広島駅北口近くの放射線治療を専門とした建物でした。現場監督として何をしたら良いのかもわからず、ただひたすら、工事の進捗状況の写真を記録し、現場がどのように進んでいくのかを勉強していく毎日でした。

入社から一年が過ぎたころ、新たに、商業施設の工事に配属となりました。そこで、私は、外装・外構担当となりました。担当を持つのは初めてのことで、不安しかありませんでしたが、信頼できる上司のおかげで、自分の思うように工事を進めることができました。そのほとんどが、私のせいで失敗してしまうことが多く、そのたび、職人さんと話し合い、解決策を見つけては実践し、の繰り返しでした。

試行錯誤しながら、前回よりもいいものになったとき、それがとても楽しく感じました。

少しずつ、自分の担当エリアが完成していくのを見るたび、「できてきたな。あともう少し。」と、ぞくぞくした気持ちになりました。

完成したときには何物にも変えられない喜びがありました。これが、地図に残る仕事なんだな、あ〜この仕事好きだな〜と実感する瞬間でもありました。

2現場を経験し、仕事の楽しさを知るとともに、出来ることも増え、少し自信もつきました。

今の業務は、小工事などの計画です。新築現場とはまた違って、気をつけることも多く、苦労しています。

将来の目標

現場監督は、私にとって天職だと思っています。現場には、現場ごとのカラーがあり、そこで出会うすべての人たちがいきいきと働いています。そんな彼らに、エネルギーをもらえますし、一緒に成長していきたいと思えます。高めあうことができる仲間がいることは本当に素晴らしい事だと思っています。

私の入社当初の将来の目標はテーマパークの工事に携わることです。それは今も変わっていません。

今の私は、地方採用なので、その目標は叶いませんが、来年、一級建築士の資格を取得し、その後は、全国採用の試験を受けるつもりです。

また、まだまだ女性が少ない業界ではありますが、私自身が建設業界で働く女性のロールモデルとなれるように、頑張っていきたいと思っています。

在校生の皆さんへ

社会に出ると、様々な人に出会います。

いい意味でも、悪い意味でも、今まで、遭遇したことの無いような人にも出会います。そんな出会いを大切に出来る人こそ、素晴らしいと思います。

高専の5年間の仲間はもちろんですが、在学中に様々なことを経験したり、様々な場所へ足を運んでみたり、積極的にコミュニケーションを図ることをお勧めします。

今後の皆さんの活躍を心より祈っております。



岡山の現場で仲良くなった先輩と岡山城へ

徳山高専ホームカミングデー

徳山高専では、2016年10月29日（土）に徳山高専ホームカミングデーを開催しました。ホームカミングデーは、卒業生の皆様や退職された教職員の方々を母校にお迎えし、互いに親睦を深めていただくとともに、現在の徳山高専を地域の皆様にも広く知っていただく機会として、今年で3回目となります。

14期から38期までの卒業生とご家族32名が参加しました。茶話会の席では、当時の担任の先生や級友との卒業以来の再会を喜びあったり、また新たな交流を深めたり、ホームカミングデーに相応しい場となりました。キャンパスツアーでは、改装された校舎の屋上からの眺望、教室や実習工場と懐かしい場所をめぐり、学生寮もご案内しました。

また途中には、当時の先生に教壇にたっていただき、ホームルームを行いました。まるで学生に戻ったかのような時間でした。

末尾となりましたが、ご参加いただいた方々にお礼を申し上げるとともに、来年度以降の徳山高専ホームカミングデーへのご来場もお待ちしております。



図書館だより

ここ数年、図書館の利用者数・貸出冊数とも増加傾向が続いています。そこで、学生にもっと多くの本を利用してもらいたいと考え、今年度から本科生の貸出期間を2週間に延長しました。これまでよりも多くの学生が本に親しんでくれることを期待しています。また、新刊や話題の図書を紹介するポップや季節毎に特定のテーマに関する本を紹介するコーナーの設置を始めました。本を選ぶ時の参考にしてください。



なお、図書館は学生だけではなく、教職員も利用可能です。教職員の皆さんも身近な本校図書館をぜひご利用下さい。今年度末には、老朽化した図書館書架が更新される予定です。利用者から不評だった書架間の間隔が狭いという問題も解消される予定ですのでご期待下さい。



今年の図書館時間外開館補助員の紹介

機械電気工学科5年	河口 大輔
機械電気工学科5年	山近 祐也
情報電子工学科5年	隈井絵梨香
情報電子工学科5年	合田 駿
情報電子工学科5年	中道 由菜
情報電子工学科5年	中村 優花
情報電子工学科5年	三宅 弘毅
土木建築工学科5年	石丸 七海
土木建築工学科5年	小林 爽香
土木建築工学科5年	村上 佳菜

退職に寄せて

一般科目 長廣 恭子

非常に高い能力を持ちながら邪心が無く、心豊かで優しい。人が大好きで技術が大好き。そんな徳山高専生が私は大好きでした。毎日学校へ来るのが楽しみで、授業へ行くのが楽しみで、そんな皆さんと人生の多くの時間を一緒に過ごすことができたことを本当に幸せに思います。

私が本校へ赴任したのは1期生が4年生になる年の7月でした。それから40年近く、前半を物理、後半を数学の教員として勤めさせて頂きました。当初は毎週物理実験があり、前期4年生が比電荷やプランク定数を求める実験など7テーマを、後期2年生が熱の仕事当量や抵抗率を求める実験など12テーマを班ごとにローテーションで行っていました。そして毎週レポートを提出してもらっていましたが、9期生以降受け取る際に口頭試問を始めました。理論式を導いてもらったり、結果を分析してもらったり、1人2～5分くらいかかります。毎週120通のレポートが出てきますから非常に時間がかかるわけで、毎日休み時間、放課後に行列ができていたのを思い出します。

赴任10年目頃から学内広報誌「徳山高専だより」の編集に10年ほど携わりました。当時の「高専だより」は毎号特集記事を掲載していました。座談会やインタビューなど様々な特集を企画し、記事を書くのはとても楽しかったのですが、校正、特に最後の詰めになると非常に神経を使いました。細かい指示を出さなければなりませんし、記事の内容で誰かが傷ついたり不利益を被ったりするようなことがあってはなりませんから。でも、刷り上がった冊子を手にとると、それまでの苦勞が全部吹き飛んだものです。

その後数学科に籍を移し、授業や担任を持つようになりました。平成10～21年度の12年間で9回1年生を担当しました。その中には1クラスに複数名の深刻な問題を抱えた学生が居た年もあり、私も一緒にそれらの問題を背負いますから、私自身がその重さに耐えかねて相談室通いをしていたこともあります。いろいろと大変なこともありまし

たが、総じて充実したやりがいのある楽しい仕事でした。クラスの学生の皆さんは、自慢したいような学生ばかりで、ある人にそのようなことを話したら、「担任バカ」と言われました。

クラブは30年以上美術部の顧問でしたが、20年ほど前に伝統文化に親しむ同好会を立ち上げ、主に華道と藍染めを行ってきました。華道は空間造形の一つですから、建築などを志す学生の皆さんのセンスアップになればと思い、自由花を中心に華道の先生を招き指導頂きました。藍染めの方は、毎年夏休みに藍染め作家の方にご指導頂きながら日本古来の藍建て（灰汁発酵建て正藍染め）を行ってきました。一連の藍建ての行程において、捨てる物は全くありません。唯一不要になるのが灰汁を取った後の灰ですが、これは陶芸の釉薬に利用されます。藍は微生物で、寿命は3か月位ですが、寿命を終えた藍は非常に良い畑の肥料になります。日本は昔から資源のない国ですから、物を大切にしてきました。資源を最大限に生かし切って、最高の物を作る国だと言ってもいいと思います。日本の藍染めは、ジャパンプルーと呼ばれ、世界で最も美しい藍だとされています。効能も素晴らしく、蛇や虫や雑菌を寄せ付けず、繊維の強度や保温性を高め、汚れた服のリサイクルにも役立ちます。そのような日本の物作り文化に少しでも興味を持って貰えればと思い藍建てを続けてきました。

学生の皆さんには、高専でいろいろなことを学んで、自分の持てる能力をしっかりと伸ばし、多くの人々のために役立てて欲しいと思います。社会で活躍する皆さんの姿を見るのを楽しみにしています。

最後になりましたが、教職員の皆様方には様々な場面で助けて頂いたり、支えて頂いたりしてきました。皆様のおかげでここまでやってこられたと思っております。心より感謝いたします。

退職者挨拶

退職にあたり

学生課長 大谷 昌弘



私は、開校2年目の昭和50年4月に会計用度係という物品の契約や管理、公用車の運行計画、校舎内の清掃、ボイラーでの暖房業務等を所掌する係に採用になりました。採用初日は旧新南陽市の下上にある仮校舎で辞令交付の後、4月からの新入生の債権管理カードに学科、学年、氏名を記入する作業を行い、翌日からは用度係長と2人で現校舎の宿直室で、物品の納品の検収と納入場所への指示や各部屋の鍵の整理をやっていたことが懐かしく思い起こされます。あれから42年間、多くの方との出会いがあり、今日まで育てていただきました。徳山高専に採用された当時は、学年進行中で毎日が物品の購入手続きや納品検収に追われる日々でしたが、若い職員も多かったこともあり和気藹藹に仕事をしていました。これまでの職歴の中で印象に残っているのは、初めて徳山高専から山口大学へ人事交流で転勤し、職務環境、人間関係について大変不安な中、配属先の学部長を始め多くの教職員の皆さんの支援で何事もなく徳山高専に帰任することができたこと。二つ目は、国の時代から独立行政法人に組織が変わった時。会計簿記の知識が無いまま会計系に配置換えになり、簿記に明るい係員と夜遅くまで議論しながら中間決算や決算業務を行ったこと。三つ目は、大島商船高専に配置換えになり、赴任した年から2年連続で耐震工事が行われたとき。教員が担当する教室の机と椅子の引っ越しに加わって手伝ったことが、6月からの大規模な引っ越しで、教員全員の協力が得られ、スムーズに引っ越しが進み、総務課経理担当職員の協力を受け、新しい物品の購入計画や搬入手続きが年度内に終わり、徳山高専に帰任したこと。そして勤続42年間のうち最後の3年間初めての学生課を経験し、学生との触れ合いを通じ気持ちが若返った気がしたこと。この気持ちを持ちつつ退職後は郷里に帰り趣味の釣りをし、家業のみかん作りをしながら自然と共働し気ままに生活していきたいと思っております。この42年間多くの方のご支援ご鞭撻に心から感謝申し上げます。



退職にあたって

学生課寮務係 寮務係長 山本 秀喜



私は昭和58年5月に実家が地元と言うこともあり、宇部の山口大学工学部土木工学科より徳山高専の土木建築工学科の技官として赴任して来ました。あれから、30数年を徳山高専でお世話になり、この3月で定年を迎えることになりました。徳山高専に赴任した当時は、先生も同年代の方が多くおられましたので、楽しく過ごさせて頂きました。学生とも年齢が近かったので実験実習・測量実習や現場見学等では一緒に勉強をしている気分でした。その頃が懐かしく思い起こされます。その後、技術系から事務系へ配置換えとなり、各部署の業務を経験いたしました。特に、教務係での入試業務では気を遣うことが多くプレッシャーがあったように思います。

退職をしましたら、体力維持のため20歳頃からやっているテニスが続けてやりたいと思っております。もう一つの趣味であるバイクツーリングにも行きたいと思っております。最後に、徳山高専の益々のご発展と皆様方のご健勝をお祈りいたします。



編集後記

ここに徳山高専だよりを上梓し、保護者の方々をはじめ、本校の運営に関わるみなさま、ご支援いただいているみなさまに、御礼とともに本校の1年間の報告をさせていただきます。

「徳山高専だより」の編集が終わり、この一年を改めて振り返ってみると「グローバル高専事業（展開型）」や「大学教育再生加速プログラム（AP）」事業に採択され、海外に出かける学生数が倍増するなど教育のグローバル化、教育の改革が開始された年でした。「OECD Education 2030」で謳われている2030年の社会で活躍するための新しい資質・能力の育成のため、本校におけるこれからの教育改革の進捗を、今後、暖かく見守り、応援していただければ幸いです。

徳山工業高等専門学校

National Institute of Technology, Tokuyama College

徳山高専だより No.70

発行 総合企画室
所在地 〒745-8585 山口県周南市学園台
TEL (0834) 29-6200 (代表)
FAX (0834) 28-7605 (代表)
印刷 大村印刷株式会社
発行日 2017年(平成29年)3月4日
URL <http://www.tokuyama.ac.jp/>

National Institute of Technology, Tokuyama College



本校の「設計情報工学」プログラムは、日本技術者教育認定機構（JABEE）からの認定を受けています。



COLLEGE OF TECHNOLOGY
ACCREDITED
Mar. 2013

本校は、平成24年度に独立行政法人大学評価・学位授与機構の認証評価を受け、認証評価基準を満たしていると認定されました。平成18年度に同機構による認証評価を得ており、引き続き認定されたものです。



大学教育再生加速プログラム

本学の申請が文部科学省の平成28年度大学教育再生加速プログラム（AP）高大接続改革推進事業「テーマV 卒業時における質保証の取組の強化」に採択されました。